

高知県埋蔵文化財センター年報

6

1 9 9 6 年度

1 9 9 7

財団法人 高知県文化財団
埋蔵文化財センター



奥谷南岩陰遺跡 (1号岩陰から2号岩陰方向をのぞむ)



田村遺跡群 K区 完掘状況

序

当埋文センターは、開設以来5カ年が経過しましたが、各種開発に伴う緊急発掘調査は年々増加の一途を辿っております。これまでの中村宿毛線道路建設や四国横断自動車道路建設、あけぼの道路建設などに加えて、本年度より県政の重要施策であります高知空港再拡張整備事業に伴う田村遺跡群の発掘調査と土佐市バイパス建設に伴う調査が開始されました。この結果、8年度の受託事業は20件、市町村への派遣事業は10件となりました。またこれからの発掘調査の対応のみならず、これまでの調査の報告書の作成も日程に登りはじめてまいりました。現場作業と報告書作成をいかにバランス良く、かつ効率的に進めて行くべきであるのか、重要な課題であります。このような事業規模の拡大の中で、関係部局の理解とご尽力によりまして、本年度は4月1日付けで、学校現場より5名の派遣が、また6月1日付けで財団プロパー職員として5名の新規採用があり、計10名の調査員の増員がなされ調査体制の強化が図られました。

前述したように増加の一途を辿る調査の中で、注目すべき成果も数多く挙がっております。四国横断自動車道路の南国－高知工区の奥谷南遺跡からは、これまで四国では前例のなかった旧石器時代と縄文時代草創期の岩陰遺跡を発見し、多量の遺物を得ることができました。これまで推測でしか語られることのなかった当該期の歴史の実像にも迫ることができるようになり、また田村遺跡群は前回の調査において南四国最大の弥生集落として知られているところではありますが、すでに弥生中期、後期の堅穴住居が60棟以上発見されております。これからの調査の進展が楽しみです。埋蔵文化財センターでは、調査の成果を少しでも早く県民の皆さまにお知らせし、埋蔵文化財の重要さ、発掘の楽しさを一層知って頂くために、また発掘現場と県民の皆さまを繋ぐ場としてより理解を深めて頂くために現地説明会を実施しております。8年度は、市町村派遣を含めて10回実施致しましたところ、1500余名の参加者を迎えることができました。まさに地域の歴史に対する皆さまの意識の高揚を感じさせられる思いが致しました。

発掘調査は私たちに一度だけ許された遺跡の解剖であります。新たな建設によって、地域社会が未来に羽ばたこうとする時、地域の歴史が明らかになるということは、意義深いものがあると思えます。埋蔵文化財センターは、広く県民の皆さまの期待に答えられるように、職員一同一丸となって日夜奮闘致す所存であります。今後とも一層のご理解とご指導を頂けますようお願い申し上げます。

平成9年7月

財団法人高知県文化財団
埋蔵文化財センター
所長 古谷 硯志

目次

序

I 財団法人高知県文化財団	1
1 高知県文化財団の概要	
2 高知県文化財団の組織	
II 埋蔵文化財センター	3
1 埋蔵文化財センターの概要	
2 埋蔵文化財センターの組織	
3 新事務所紹介	
III 年間事業の概要	7
1 発掘調査事業	
(1) 受託事業	
(2) 派遣事業	
2 啓蒙普及事業	
3 研修事業他	
IV 発掘調査概要報告	14
V 条例・規則・規程等	38

例言

1. 本書は高知県文化財団埋蔵文化財センターの平成8年度（1996）事業の概要をまとめたものである。
2. 発掘調査については、当センターの受託・派遣事業以外の県教委及び市町村教育委員会で実施した調査についても掲載した。
3. 本書の編集は、出原が行い、II-3については担当班長が、IVについては各担当者が執筆し、その他については出原が執筆した。

I 財団法人高知県文化財団

1. 財団法人高知県文化財団の概要

(1) 設立趣旨

近年、所得水準の向上や自由時間の増大など社会経済情勢の変化を背景に、芸術文化活動に直接参加し、或いは歴史的・文化的遺産に自ら親しむことを通じて、生活の中に潤いとやすらぎを求めるといふ県民の文化的ニーズがかつてなく高まってきている。

このような時代のすう勢の中で、これからの文化行政は、より県民の期待に応えるものでなければならないが、特に、その推進に当たっては、単に行政のみが主導していくのではなく、行政と民間がそれぞれの叡知、力を出し合い、一致協力していくことがなりよりも必要である。

高知県文化財団は、こういった使命と目的のもとに、県民文化の振興に資する芸術文化関連諸事業を、県、市町村、民間の力を幅広く結集して総合的、体系的に運営実施すると共に、県民の文化活動の拠点となる各種の芸術文化施設についてもその特性を活かし、公共性を確保しつつ、県民サービスの向上につながる、柔軟で弾力的な管理運営を行うなど、今後の本県の芸術文化活動の推進母体としての役割を担おうとするものである。

(2) 事業内容

- 1) 音楽、演劇、美術その他の芸術文化事業
- 2) 教育、学術及び文化の国際交流事業
- 3) 歴史民俗資料館、美術館等芸術文化施設の管理運営事業
- 4) 埋蔵文化財の調査研究、整理保存、展示等の事業
- 5) その他文化振興に関する事業

(3) 設立年月日

平成2年3月28日

(4) 事務局所在地

高知県高知市高須353-2

高知県立美術館内

2. 財団法人高知県文化財団の組織

(1) 財団組織

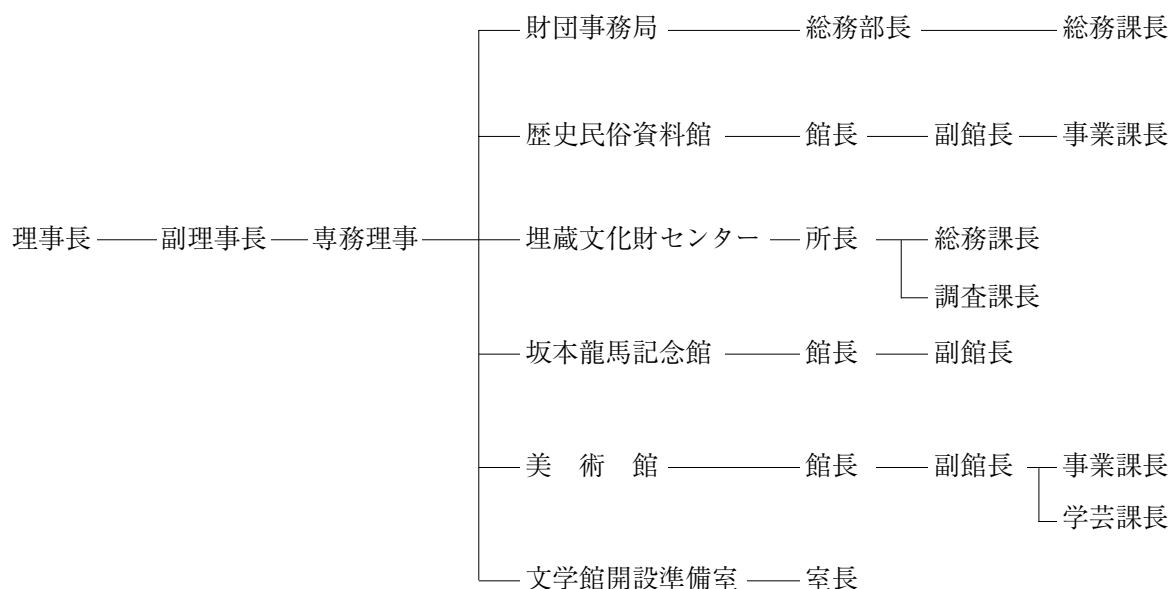
①理事会役員

理事長 1 名 副理事長 2 名 専務理事 1 名 理事 8 名 監事 2 名

②事務局

総務部長（専務理事）－総務課長（美術館副館長）－事務職員

③財団組織図



役職名	氏名	備考
理事長	千頭 信也	県理事
副理事長	佐竹 紀夫	高知県文化環境部長
副理事長	浜田 耕一	四国銀行頭取
専務理事	山崎 浩	高知県文化環境部参事
理事	松尾 徹人	高知市長
理事	鎌倉 利夫	高知県町村会会長
理事	橋井 昭六	高知新聞社社長
理事	吉村 眞一	高知県商工会議所連合会会頭
理事	清水 泉	高知銀行会頭
理事	吉良 正人	高知県教育長
理事	清田 康之	高知県総務部長
理事	近藤 美佐	高知地方裁判所民事調停委員
監事	田所 睦三	高知市収入役
監事	鍋島 誠朗	四国銀行公務部長

Ⅱ 埋蔵文化財センター

1. 埋蔵文化財センターの概要

(1) 設立趣旨

財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターは、高知県における埋蔵文化財の調査研究及び資料の保存管理を行うとともに、埋蔵文化財愛護思想の普及啓蒙を図り、本県の文化振興に寄与することを目的とする。

(2) 事業内容

1) 埋蔵文化財の発掘調査

県内における遺跡の発掘調査を行い報告書を刊行する。

2) 埋蔵文化財の保存管理

発掘調査等による出土遺物、調査記録等の管理及び保管を行う。

3) 埋蔵文化財の研究・普及啓蒙

埋蔵文化財について調査研究を行うとともに、その成果をもとに出土遺物の公開展示、現地説明会及び展示会の開催等により、埋蔵文化財愛護思想の普及啓蒙を図る。

4) 埋蔵文化財に関する資料収集及び情報提供に関すること

5) 高知県立埋蔵文化財センターの管理・運営に関すること

(3) 設立年月日

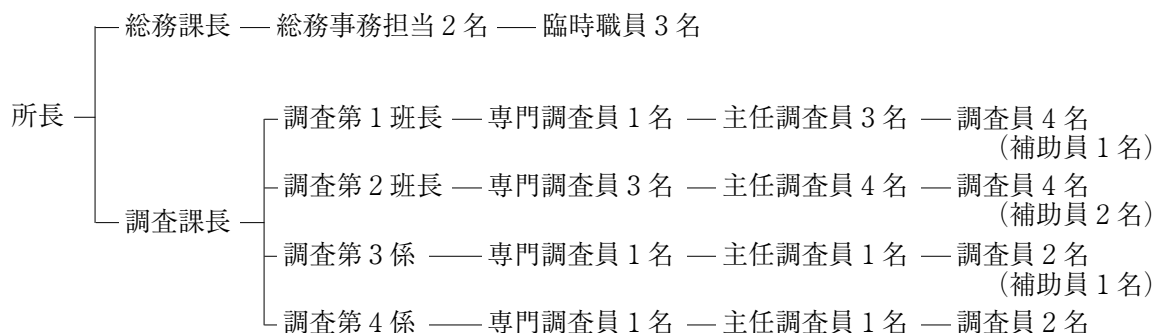
平成3年4月1日

(4) 埋蔵文化財センター所在地

高知県南国市篠原南泉1437-1

2. 埋蔵文化財センターの組織

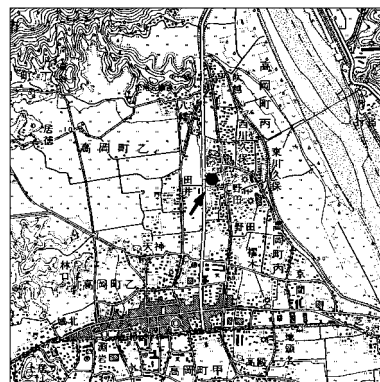
(1) 埋蔵文化財センター組織図



職名	氏名	備考		
所長	古谷 硯志	高知県文化環境文化参事		
総務課長	田岡 英雄	高知県文化環境部文化推進課主監		
総務担当	主幹	吉岡 利一	高知県文化環境部文化推進課主幹	
	主事	石川 馨	高知県文化環境部文化推進課主事	
	臨時職員	中須賀 宏典	高知県文化財団臨時職員	
	臨時職員	福重 留美	高知県文化財団臨時職員	
	臨時職員	徳橋 美和	高知県文化財団臨時職員	
調査課長	岩崎 嘉郎	高知県文化環境部文化推進課副参事		
調査担当	調査第1班	調査第1班長	山本 哲也	高知県教育委員会文化財保護室主監
		専門調査員	大野 佳代子	高知県教育委員会生涯学習課社会教育主事
		主任調査員	小嶋 博満	高知県教育委員会生涯学習課社会教育主事
		主任調査員	山本 雄介	高知県教育委員会生涯学習課社会教育主事
		主任調査員	松村 信博	高知県教育委員会生涯学習課社会教育主事
		調査員	江戸 秀輝	高知県教育委員会生涯学習課社会教育主事
		調査員	曾我 貴行	高知県文化財団職員
		調査員	久家 隆芳	高知県文化財団職員
		調査員	下村 裕	高知県文化財団職員
	調査補助員	山本 純代	高知県文化財団嘱託職員	
	調査第2班	調査第2班長	森田 尚宏	高知県教育委員会文化財保護室主監
		専門調査員	田坂 京子	高知県教育委員会生涯学習課社会教育主事
		専門調査員	宮地 早苗	高知県教育委員会生涯学習課社会教育主事
		専門調査員	小嶋 恵子	高知県教育委員会生涯学習課社会教育主事
		主任調査員	松田 直則	高知県教育委員会文化財保護室主幹
		主任調査員	三橋 麻里	高知県教育委員会生涯学習課社会教育主事
		主任調査員	前田 光雄	高知県教育委員会文化財保護室主幹
		主任調査員	山崎 正明	高知県教育委員会生涯学習課社会教育主事
		調査員	坂本 憲昭	高知県文化財団職員
		調査員	吉成 承三	高知県文化財団職員
		調査員	坂本 裕一	高知県教育委員会生涯学習課社会教育主事
		調査員	竹村 三菜	高知県文化財団職員
		調査補助員	武吉 眞裕	高知県文化財団嘱託職員
		調査補助員	松田 重治	高知県文化財団嘱託職員
	臨時職員	山崎 詠子	高知県文化財団臨時職員	
	臨時職員	谷村 容子	高知県文化財団臨時職員	
	調査第3班	調査第3係長	出原 恵三	高知県教育委員会文化財保護室主幹
		専門調査員	佐竹 寛	高知県教育委員会生涯学習課社会教育主事
		主任調査員	浜田 恵子	高知県教育委員会生涯学習課社会教育主事
		調査員	池澤 俊幸	高知県教育委員会生涯学習課社会教育主事
		調査員	藤方 正治	高知県文化財団職員
		調査補助員	行藤 たけし	高知県文化財団嘱託職員
	調査第4班	調査第4係長	廣田 佳久	高知県教育委員会文化財保護室主幹
専門調査員		泉 幸代	高知県教育委員会生涯学習課社会教育主事	
主任調査員		伊藤 強	高知県教育委員会生涯学習課社会教育主事	
調査員		小野 由香	高知県文化財団職員	
調査員		田中 涼子	高知県文化財団職員	
臨時職員	大崎 奈智子	高知県文化財団臨時職員		

(1) 土佐市発掘調査事務所

当センターでは、平成8年度から新たに土佐市バイパス工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査を実施することとなり、その拠点として、整理業務も行える施設として土佐市発掘調査事務所を現地に設置し、業務の円滑化を図っている。事務所は5×10間のプレハブ2階建てで、1階には洗浄、注記、復元を行う整理室、写場と暗室、収倉庫、シャワー室、トイレ、2階には事務所と遺物実測、トレースを行う整理室並びに休憩室等を備えている。なお、敷地面積は763㎡である。また、センターとの連絡も従前のアナログ回線以外にデジタル回線を導入し、遠距離間の情報交換やデータ検索もARAで可能となっている。



土佐市発掘調査事務所位置図

当該事業は建設省から受託した高知県教育委員会の委託を受け実施するもので、工事対象地域には犬ノ場遺跡、天神遺跡、林口遺跡の3遺跡の所在が確認されている。工事面積約70,000㎡に対し、調査対象面積は約30,000㎡であり、当初計画では、2班体制で発掘調査2年、整理作業2年をかけて行うことになっている。犬ノ場遺跡は古墳時代、古代、中世の複合遺跡で、東半分には主に古墳時代と古代の遺構・遺物がみられ、西半分には中世（12～13世紀）の遺構・遺物が中心である。天神遺跡は、弥生時代から中世の複合遺跡で、平成8年度に実施した西半分の調査では、12～15世紀の遺構・遺物を確認した。東半分については平成9年度の調査予定である。林口遺跡は、中世を中心に近世・近代の遺構・遺物がみられる。平成8年度はその南半分の調査を行い、12～15世紀の屋敷跡の一部を確認した。

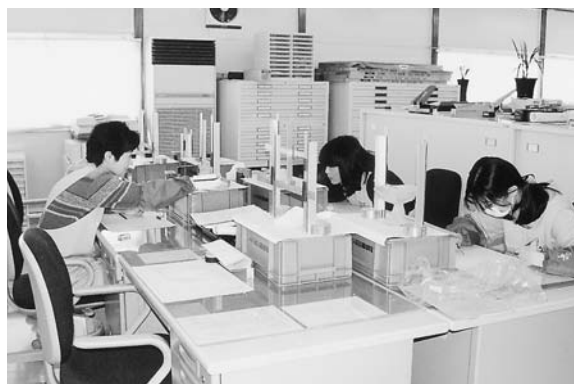


土佐市発掘調査事務所

住所：〒783	土佐市発掘調査事務所 高知県土佐市高岡町字徳丸乙3239-2
TEL	0888-52-7705
FAX・ISDN	0888-50-2033



1階作業風景（洗浄）



2階作業風景（遺物実測）

(2) 高知空港発掘調査事務所

高知空港発掘調査事務所は、高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査のために現地に設置された。高知空港拡張整備事業は、昭和59年に完成した2,000m滑走路を2,500mに再延長する事業であり、事前の協議が行われていたが、平成5年から本格的な調整が行われ事業の進捗が図られてきた。拡張は西方へ滑走路の500m延長であり、対象地は県内の穀倉地帯である高知平野の水田地帯であるところから、用地確保につ



高知空港発掘調査事務所

いてはかなりの困難性が予想されていた。発掘調査についても前回拡張時には、縄文時代後期後半の遺物散布地、弥生時代前期初頭の集落跡、前期水田跡、前期環濠集落の一部、中期～後期の集落跡、古代の掘立柱建物群、中世では溝に囲まれた屋敷跡等が検出されており、期間的にも非常に厳しい調査であった。調査の結果、田村遺跡群は弥生時代と中世と中心とする高知県最大の遺跡であり、弥生時代を通じての拠点集落、中世においても土佐国の守護代である細川氏の居館である田村城跡を中心とする一大拠点地域であったことが判明した。

今回の再拡張に伴う発掘調査においても拡張範囲は24万㎡におよび、前回調査の成果等からみても調査面積は約15万㎡程度になるものと想定された。これをもとに協議を進め、基本計画として4班体制（1班調査員2名＋調査補助員2名）による3年間の現地発掘調査と3年間の整理事業・報告書作成の合計6年間の調査計画が組まれた。多量の遺構・遺物及び調査期間・体制を考え、現在の埋蔵文化財センターでは、調査を進めるためには施設の限界があったので、現地に調査事務所を設置することとなった。高知空港発掘調査事務所は空港の南側、西寄りに位置しており、平成8年12月に完成した。プレハブ2階建の事務所と収蔵庫、車庫からなっており、事務所は1階に整理作業室・写場・倉庫・トイレ、2階に事務室・整理室・資料室・会議室等となっている。整理作業員は現在のところ20名程で水洗・注記等の基礎整理を中心に行っており、今後、遺物の実測作業等も報告書作成に向けて本格化していくところである。空港の隣接地であり、毎日ジェット機の離着陸を見ながらの作業であり、空港の調査の臨場感は十分あるが、航空騒音もまたなかなかのものである。



整理作業室（水洗室）



事務室（調査員室）

Ⅲ 年間の事業内容

1 発掘調査事業

埋蔵文化財センター開設5年目となり、大規模開発に伴う緊急調査が増加の一途を辿っている。これに対応するために、平成8年度は総務課・調査課ともに体制の整備充実を図った。総務課は担当事務職員を1名増員、調査課はこれまでの1班2係体制から2班2係体制へと拡充をし、これに伴い平成8年4月1日付けで学校教員からの派遣4名、財団プロパーの調査員5名を6月1日付けで新規採用し、新たに9名の調査員が加わり、計31名の調査員で対応することになった。

調査内容は、以下に述べるように受託事業を中心として、市町村への派遣も行っている。受託事業については、懸案であった高知委空港拡張整備事業に伴う調査と土佐市バイパス関連の調査が8年度から新たに開始され、両事業については調査規模の大型化により高知県では初めての業者委託の方法を採用した。

(1) 受託事業

平成8年度の受託事業は20件、調査面積88,178㎡であり、昨年度と比べると件数で2倍、調査面積では約3倍増している。原因者は、国（建設省・運輸省）、日本道路公団、高知県、高知市で件数面積ともに日本道路公団によるものが多くを占めている。

建設省関係は5件、13,060㎡である。継続的に行なっている中村宿毛道路建設に伴う具同中山遺跡群と浅村遺跡の調査を、また本年度から新たに始まった調査として土佐市バイパス建設に伴う犬ノ場遺跡、天神遺跡、林口遺跡の本調査を挙げることができる。具同中山遺跡群は、古墳時代の祭祀遺跡として著名な遺跡であり、過去数次にわたる調査が行なわれて来ている。今次調査区は具同中山遺跡群Ⅲ-1として位置付け調査を実施したところ、やはり古墳時代を中心とする祭祀遺構・遺物が確認された。一方土佐市バイパス関連では、これまで本格的な発掘調査が実施されてこなかった地域であり、地域の歴史復元に資するところが大きく、その内容については注目を集めている。先ず犬ノ場遺跡は、古墳時代から中世に至る複合遺跡であることが確認され、平安前期の緑釉陶器や古代末から中世初に比定できる「湖州方鏡」が出土し、当該期の掘立柱建物群が確認された。天神遺跡からは、中世の屋敷地の一部が検出され貿易陶磁器が多く出土している。

運輸省によるものは、高知空港拡張整備事業に伴う田村遺跡群の調査である。田村遺跡群は、前回の拡張整備による調査（昭和55年～58年）によって南四国最大の弥生時代拠点集落、中世・戦国期の屋敷群として一躍全国からの注目を集めるようになった。したがって今次調査の成果も大きな期待が寄せられている。8年度の調査では縄文時代後期と弥生時代中期末・後期を中心とする遺構遺物が多量に検出され、堅穴住居はすでに60棟以上が確認されている。

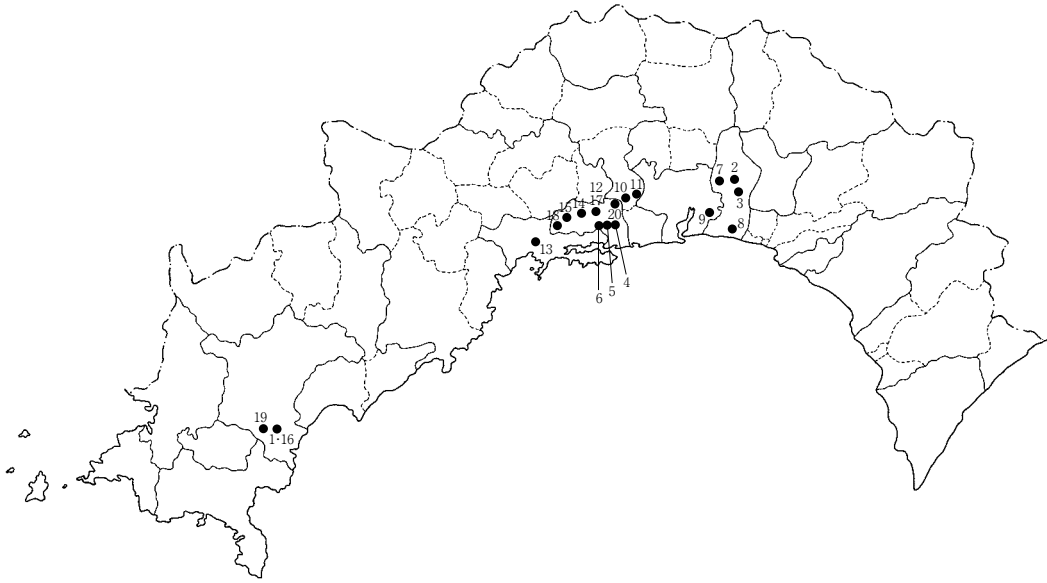
日本道路公団関係は、四国横断自動車道建設に伴う調査である。南国－伊野間では南国市の奥谷南遺跡、伊野－須崎間では伊野町の奈呂遺跡・神母谷遺跡、須崎市の飛田坂本遺跡の本調査及び土佐市の居徳、北原、御子納、人麻呂様、戸波地区において試掘調査を実施した。これらの中で奥谷

遺跡からは、旧石器時代と縄文時代草創期の遺物が層位的に確認され、これまで空白に近かった南四国の様相が飛躍的に明らかとなり、その成果は全国からの注目を集めている。奈呂遺跡と飛田坂本遺跡からは中世～近世にかけての屋敷跡とそれに伴う多くの遺物が出土し、神母谷遺跡からは縄文時代後期から古代を中心とする遺物が出土し、中でも縄文晩期系の土器と遠賀川式土器との関係は当地域における弥生文化の成立を考える上で興味深いものがある。また試掘調査は、居徳、人麻呂様地区において縄文時代後期から古墳時代の遺物遺構が確認され、9年度遺構本発掘調査を必要とする結論を得た。

高知県関連では、平成6年度来実施している「あけぼの道路」建設に伴う南国市の陣山遺跡、五反地遺跡の調査及び県道中村下ノ加江線建設に伴う具同中山遺跡群の調査である。五反地遺跡からは古代の道跡が検出され、具同中山遺跡群からは古墳時代を中心とする祭祀関連の遺物が検出された。高知市にからの受託は、河川改修事業に伴う介良遺跡の調査で、これまで高知平野からはほとんど確認されなかった初期須恵器がまとまって出土するなど注目される成果を納めている。

受託事業一覧

No.	遺跡名	調査番号	所在地	年代	種別	調査面積	調査期間	原因	委託者
1	具同中山遺跡Ⅲ-1	96-1GN	中村市具同	古墳	祭祀遺跡	2,000㎡	H8・6/1～ 11/20	中村宿毛道路	建設省県教委
2	陣山遺跡	96-2RNJ	南国市陣山	中・近世	散布地	4,145㎡	H8・8/26～ 11/13	あけぼの道路	高知県
3	五反地遺跡	96-3RNG	南国市上末松	古代～近世	散布地	6,000㎡	H8・4/23～ 8/22	あけぼの道路	高知県
4	犬ノ場遺跡	96-4TI	土佐市高岡町	古墳～中世	集落	5,104㎡	H8・7/8～ H9・2/28	土佐市バイパス	建設省県教委
5	天神遺跡	96-5TT	土佐市高岡町 天神	古代・中世	集落	2,439㎡	H8・/4～ 10/30	土佐市バイパス	建設省県教委
6	林口遺跡	96-6TH	土佐市高岡町 林口	弥生～近世	集落	2,717㎡	H8・11/19～ H9・2/28	土佐市バイパス	建設省県教委
7	奥谷南遺跡	96-7NOM	南国市岡豊町 小蓮	旧石器・縄文	岩陰遺跡	3,000㎡	H8・4/2～ 10/7	四国横断自動車道	日本道路公団
8	田村遺跡群	96-9NT	南国市田村	縄文～近世	集落	17,300㎡	H8・8/15～9/20, 10/29～H9・3/28	高知空港拡張整備	運輸省県教委
9	介良遺跡	96-10KK	高知市介良	弥生～中世	散布地	3,000㎡	H8・5/7～ 10/31	河川改修	高知市
10	八田神母谷遺跡	96-11IHI	吾川郡伊野町 八田	縄文～中世	散布地	4,750㎡	H8・6/1～ 11/20	四国横断自動車道	日本道路公団
11	八田奈呂遺跡	96-12IHN	吾川郡伊野町 八田	弥生～近世	集落	29,000㎡	H8・4/5～ H9・3/31	四国横断自動車道	日本道路公団
12	土佐市 居徳地区試掘	96-14IT	土佐市高岡町	縄文～古墳	集落祭祀	650㎡	H8・6/1～ 11/20	四国横断自動車道	日本道路公団
13	飛田坂本遺跡	96-21SHS	須崎市神田	縄文～中世	集落	4,000㎡	H8・9/24～ H9・2/28	四国横断自動車道	日本道路公団
14	土佐市 御子納地区試掘	96-22TM	土佐市蓮池	弥生～中世	散布地	425㎡	H8・10/8～ 10/29	四国横断自動車道	日本道路公団
15	土佐市 北原地区試掘	96-23TK	土佐市北原	中近世	散布地	875㎡	H8・11/1～ H9・1/21	四国横断自動車道	日本道路公団
16	具同中山遺跡群Ⅱ	96-14IT	中村市具同	古墳	祭祀	500㎡	H8・10/21～ 11/20	県道中村下ノ加江線	高知県
17	土佐市 居徳地区試掘	96-29IT	土佐市高岡町	縄文～古代	祭祀	448㎡	H8・11/14～ 12/11	四国横断自動車道	日本道路公団
18	土佐市 戸波地区試掘	96-43HW	土佐市戸波	古墳・古代	集落	650㎡	H9・1/22～ 2/22	四国横断自動車道	日本道路公団
19	浅村遺跡	96-44NA	中村市森沢	古墳	散布地	800㎡	H8・12/16～ H・92/4	中村宿毛道路	建設省
20	土佐市 人麻呂様地区試掘	96-53HM	土佐市高岡町 八幡	弥生・古代	散布地	375㎡	H8・2/19～ 3/18	四国横断自動車道	日本道路公団



平成8年度 受託発掘調査位置図（番号は一覧表に一致）

調 査 風 景



奥谷南遺跡



八田奈呂遺跡



田村遺跡群



同左

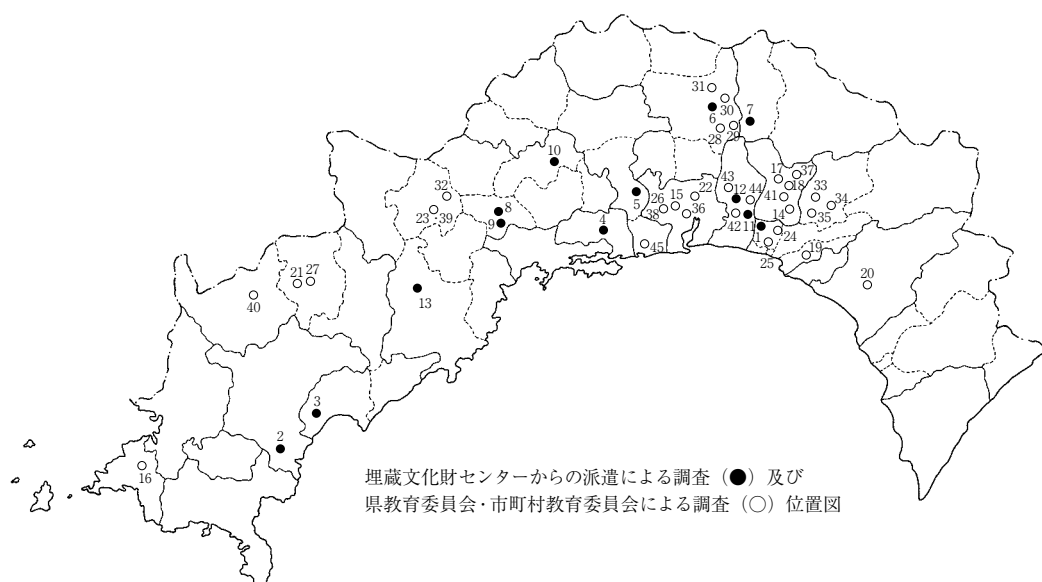
(2) 調査員派遣事業

埋文センターからの調査員派遣は、発掘調査が13件（16,168m²）、報告書作成が1件である。発掘調査の内容は圃場整備によるものが5件、公共建築物が2件、道路建設が3件、学術調査が1件、その他の開発が2件である。市町村別に見ると、野市町1件（下ノ坪遺跡）、南国市2件（岩村遺跡・白猪田遺跡）、本山町1件（銀杏の木遺跡）、土佐町1件（田畠遺跡）、伊野町1件（バーガ森北斜面遺跡）、葉山村2件（津野氏土居跡・姫野々城）、土佐市1件（林口遺跡）、越知町1件（女川遺跡）、窪川町1件（米の川遺跡）、大方町1件（曾我城）、中村市1件（一条氏関連遺跡）である。

市町村への派遣事業については、従来は市町村の専門職員の僅少さに原因して派遣職員の丸抱えによる調査が多かったが、本年度より、市町村担当者の調査従事を原則として埋文センター職員は技術指導を行い専門職員養成を基軸に調査を実施する方針を採っている。その結果、遺跡や調査に関する知識・技量を備えた担当職員が育ちつつある。

派遣事業一覧

No.	遺跡名	調査番号	所在地	時代	種別	調査面積	調査期間	原因	市町村名
1	下ノ坪遺跡	96-8NH	香美郡野市町	弥生～古代	集落	3,600m ²	H8・4/8～ 7/31	団営ほ場整備	野市町
2	一条氏関連遺跡	96-15NI	中村市小姓	中世	屋敷跡	150m ²	H8・5/18～ 8/20	民間開発	中村市
3	曾我城跡	96-160S	幡多郡大方町浮鞭	中世	城跡	2,336m ²	H8・7/15～ 10/15	国営農地開拓	大方町
4	林口遺跡市道	96-28TS	土佐市高岡町	弥生・中世	散布地	510m ²	H8・11/12～ H9・2/18	市道改修	土佐市
5	バーガ森北斜面遺跡	96-31IB	吾川郡伊野町	弥生・古代	集落	124m ²	H8・10/28～ 11/28	広域農道	伊野町
6	田畠遺跡	96-39TT	土佐郡土佐町田畠	弥生	集落	370m ²	H8・7/29～ 8/28	県営圃場整備	土佐町
7	銀杏ノ木遺跡	96-49MG	長岡郡本山町本山	縄文～近世	集落	2,366m ²	H9・2/4～2/6, 3/3～3/21	宅地造成	本山町
8	姫野々城跡	96-51HHJ	高岡郡葉山村	中世	城跡	40m ²	H8・12/16～ H9・2/14	公園整備事業	葉山村
9	津野氏土居跡	96-52HTD	高岡郡葉山村	中世	屋敷跡	750m ²	H8・5/7～ 10/31	福祉総合センター	葉山村
10	女川遺跡	96-54OG	高岡郡越知町女川	縄文～中世	集落	533m ²	H9・2/28～ 3/27	学術調査	越知町
11	岩村遺跡群	96-58NI	南国市福船	弥生～近世	集落	3,910m ²	H8・9/11～ H9・2/10	県営圃場整備	南国市
12	白猪田遺跡	96-59NS	南国市久礼田	古代	集落	1,018.7m ²	H8・12/3～ H9・2/21	県営圃場整備	南国市
13	米の川遺跡	96-60KK	幡多郡窪川町	近世	墓地	800m ²	H8・12/15～ 12/27	県道	窪川町



埋蔵文化財センターからの派遣、県教育委員会、市町村による調査位置図（番号は一覧表に一致）

県教委・市町村教委による調査

No.	遺跡名	所在地	時代	種別	調査面積	調査期間	原因	調査主体
14	林田城跡遺跡	香美郡土佐山田町林田	弥生・中世	集落城跡	150㎡	H8・7/8～ 7/15	県庁舎建設	県教委
15	鷹泊橋付近遺跡	高知市鴨部	弥生・古墳	散布地	16㎡	H8・4/7	民間宅地造成	高知市
16	ナシケ遺跡	大月町弘見	旧石器・縄紋	原産地遺跡	172㎡	H8・8/19～ 10/4	学術調査	大月町
17	林谷3号窯跡	香美郡土佐山田町新改	古代	窯跡	60㎡	H8・7/29～ 8/27	自然破壊に伴う 緊急調査	土佐山田町
18	楠目遺跡群予岳地区	香美郡土佐山田町楠目	中世	社寺跡	2,000㎡	H8・9/24～ H9・2/4	県道及び圃場整備	土佐山田町
19	徳善城跡	香美郡香我美町徳王寺	近世	城館	30㎡	H8・7/31～ 8/1	県道改修	県教委
20	マテダ遺跡	安芸市井の口	弥生	散布地	147㎡	H8・9/2～ 9/13	県営圃場整備	安芸市
21	河内遺跡	幡多郡十和村河内	縄紋・中世	散布地	490㎡	H8・10/7～ 11/15	県営圃場整備	十和村
22	旧手島家住宅	高知市	近世	住宅	5㎡	H8・10/14	整備事業	高知市
23	西の川遺跡Ⅰ	高岡郡東津野村西の川	縄紋	散布地	822㎡	H8・11/25～ 12/13	県営圃場整備	東津野村
24	高田遺跡	香美郡野市町下井	弥生～古代	散布地	96㎡	H8・8/26～ 27	町道拡幅	野市町
25	上岡遺跡	香美郡野市町神岡	弥生・中世	祭祀地	104㎡	H8・12/16～ H9・2/25	農業排水事業	野市町
26	柳田遺跡Ⅰ	高知市朝倉	弥生・古墳	散布地	200㎡	H8・12/16～ 12/24	民間宅地造成	高知市
27	くづつけ遺跡	幡多郡十和村大井川	縄紋	散布地	240㎡	H8・11/25～ 12/6	県営圃場整備	十和村
28	三島桜ケ内遺跡	土佐郡土佐町田井	弥生・中世	散布地	150㎡	H8・12/11・12	県営圃場整備	土佐町
29	下古城遺跡	土佐郡土佐町田井	弥生	散布地	30㎡	H8・6/28	町道改修	土佐町
30	宮古野遺跡	土佐郡土佐町宮古野	縄紋・弥生・中世	散布地	760㎡	H8・10/23～ 12/6	県営圃場整備	土佐町
31	静岡遺跡	土佐郡土佐町鏡	縄紋	散布地	80㎡	H8・12/8～ 12/11	県営圃場整備	土佐町
32	土居越遺跡	高岡郡東津野村北川	縄紋	散布地	918㎡	H9・3/3～ 3/31	県営圃場整備	東津野村
33	五百蔵遺跡	香美郡香北町五百蔵	中世	散布地	190㎡	H9・1/29～ 3/3	県営圃場整備	香北町
34	美良布遺跡	香美郡香北町美良布	縄紋・弥生	散布地	104㎡	H8・6/12・17	美術館周辺整備	香北町
35	太郎丸遺跡	香美郡香北町太郎丸	縄紋・弥生・中世	散布地	86㎡	H9・2/17～ 2/21	下水道工事	香北町
36	南御屋敷跡	高知市鷹匠町	近世	屋敷跡	20㎡	H9・1/13～ 1/29	駐車場建設	高知市
37	山田予岳寺跡	香美郡土佐山田町予岳	弥生・古墳・中世	屋敷跡	2,500㎡	H8・9/30～ H9・2/2	県営圃場整備	土佐山田町
38	柳田遺跡Ⅱ	高知市朝倉	弥生・古墳	散布地	75㎡	H9・3/34	店舗建設	高知市
39	西の川遺跡Ⅱ	高岡郡東津野村西の川	縄紋	散布地	736㎡	H9・3/3～ 3/31	県営圃場整備	東津野村
40	大宮宮崎遺跡	幡多郡西土佐村大宮	縄紋	祭祀	450㎡	H8・4/8～ 7/31	県営圃場整備	西土佐村
41	楠目地区遺跡群	香美郡土佐山田町	弥生～中世	散布地	120㎡	H9・3/10～ 3/27	地方占拠都市開発	土佐山田町
42	国分寺遺跡群	南国市国分	古代・中世	散布地	70㎡	H8・8/20～ 9/5	市道拡張	南国市
43	宮ノ前遺跡	南国市岡豊町	弥生～古代	散布地	29㎡	H8・9/24～ 10/2	市道拡張	南国市
44	ハザマダ遺跡・泉ヶ内遺跡・畑ヶ田遺跡	南国市植田	古墳・古代	散布地	300㎡	H9・2/12～ 2/28	県営圃場整備	南国市
45	西諸木地区遺跡群	吾川郡春野町西諸木	弥生～中世	散布地	250㎡	H9・3/3～ 3/31	県営圃場整備	春野町



下ノ坪遺跡焼失住居



白猪田遺跡

2 普及啓蒙活動

(1) 記者発表・現地説明会

記者発表と現地説明会は、広く県民の方々に遺跡の重要性と発掘調査の楽しさを理解して頂き、また遺跡と市民とを結ぶ最良の機会として位置付け、一定のまとまった成果が明らかとなった時点で実施しており、今やすっかり定着している。平成8年度は、受託事業・派遣事業で10回の記者発表・現地説明会を実施し、1400名近い参加者があった。参加者の中には、説明会後に感想文などを寄せて下さる方もあり、遺跡についての関心の高まりが感じられる。主催者としては、今後一層の創意工夫を重ね、県民の期待に答えられるように努力しなければならない。

現地説明会

番号	遺跡名	内容	開催日	会場	主催	参加人数
1	下ノ坪遺跡	記者発表 現地説明会	H8年7月4日 ヅ 7月7日	香美郡野市町 下ノ坪	野市町教育委員会	220名
2	奥谷南遺跡	記者発表 現地説明会	H8年8月7日 ヅ 8月11日	南国市岡豊町 小蓮奥谷南	埋文センター	230名
3	介良遺跡	記者発表 現地説明会	H8年10月8日 ヅ 10月10日	高知市介良	埋文センター	120名
4	曾我城遺跡	記者発表 現地説明会	H8年10月18日 ヅ 10月19日	幡多郡大方町 浮鞭城ノ谷	大方町教育委員会	80名
5	犬ノ場遺跡1 天神遺跡	記者発表 現地説明会	H8年10月24日 ヅ 10月25日	土佐市高岡町 天神・野田	埋文センター	120名
6	神母谷遺跡	記者発表 現地説明会	H8年11月28日 ヅ 11月30日	吾川郡伊野町 八田神母谷	埋文センター	110名
7	犬ノ場遺跡2	記者発表 現地説明会	H8年10月24日 ヅ 10月25日	土佐市高岡町野田	埋文センター	90名
8	岩村遺跡群	記者発表 現地説明会	H8年12月20日 ヅ 12月23日	南国市福船	南国市教育委員会	100名
9	白猪田遺跡	記者発表 現地説明会	H9年1月29日 ヅ 1月30日	南国市久礼田	南国市教育委員会	90名
10	田村遺跡群	記者発表 現地説明会	H9年3月14日 ヅ 3月15日	南国市田村	埋文センター	290名

遺跡、施設の見学

参加団体	月日	見学場所	人数
香美郡文化財保護委員連絡協議会	平成8年10月4日	岩村遺跡、埋文センター	54名
葉山村史談会	ヅ 10月4日	埋文センター	12名
県立学校初任者研修	ヅ 10月11日	岩村遺跡、埋文センター	48名
吉川村立吉川小学校	ヅ 10月11日	埋文センター	45名
土佐山田町立舟入小学校	ヅ 10月11日	埋文センター	35名
南国市中学社会科教育研究会	ヅ 11月6日	埋文センター	10名
県立高知小津高校教員	平成9年3月6日	田村遺跡	10名



奥谷南遺跡



白猪田遺跡



八田神母谷遺跡



田村遺跡群

(2) 埋文センター施設・遺跡見学

埋文センターで行われる出土遺物の洗浄，中期，接合，実測図作成等の諸作業は，遺物を資料化する重要な行程であり，発掘調査と同様の慎重さが要求される。しかしながら一般には発掘の現場作業ほどには知られていないのが現状である。埋文センターとしては，このような行程の重要性を理解して頂くために，可能な限り見学者を受け入れている。土器破片を接合して一個体に完成させる様子などは，最も興味を引く場面であり，見学者，団体ともに年々増加の傾向にあり，平成8年度は10団体，200名にのぼった。将来的には展示設備の整備などを図って行かなければならない。

3 研修事業他

職員研修は，所内研修として新入職員を対象として考古学の基本的な知識・技術の習得や県内の埋蔵文化財に関する理解を深めるための研修と職員全体の知識・技術の向上等を目的とする外部講師を招いた研修を実施している。8年度の外部講師による研修は，11月28・29日に牛島茂氏（奈良国立文化財研究所）による「埋蔵文化財写真・入門編」，1月16日に山中敏史氏（奈良国立文化財研究所）による「地方官衙遺跡の調査法と発掘成果」を行った。所外研修は，他県との情報の交換や取得のために例年奈良国立文化財研究所や県外の調査現場，博物館，埋文センター等への派遣を行っている。この他各種会議への参加も鋭意行っている。

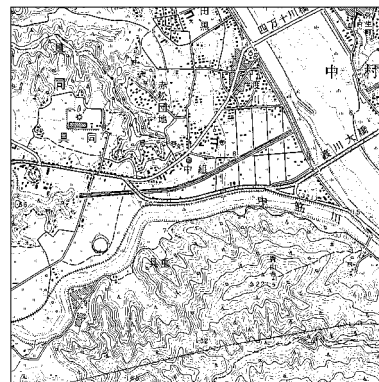
会議等参加

参加会議等	日時	参加者
第17回全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会（愛媛県）	平成8年6月6・7日	古谷所長，山本調査第一班長
全国コンピューター等研究委員会「中・四・九州ブロック地区委員会」（広島県）	平成8年9月26・27日	廣田第4係長，曾我調査員，坂本調査員
平成8年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会（山形県）	平成8年10月3日～10月5日	山本第1班長，廣田第4係長，石川主事
平成8年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会中国・四国・九州ブロック会議（広島県）	平成8年11月14・15日	古谷所長，吉岡主幹，坂本調査員
平成8年度四国埋蔵文化財法人実務担当者会（徳島県）	平成8年11月27日・28日	出原第3係長，石川主事

IV 発掘調査概要

具同中山遺跡群Ⅲ-1 (96-IGN)

1. 所在地 中村市具同
2. 立地 中筋川左岸の沖積地
3. 時代 古墳時代～中世
4. 調査期間 平成8年6月5日～11月21日
5. 調査面積 1,500m²
6. 担当者 竹村三菜・松田直則・山崎正明・武吉眞裕



7. 調査内容 具同中山遺跡は昭和20年代の河川堤防工事の際に発見されて以来、古墳時代の祭祀遺跡として注目されてきた。昭和61, 63と平成元年から2ヵ年に亘っての河川改修に於ける調査では縄文時代から中世に亘る遺物・遺構など幡多地域の歴史を解明して行く上で貴重な資料を得ることができた。平成6年度からは中村・宿毛間の高規格道路建設に伴い具同中山遺跡群の調査が継続して行われ、現在まで具同中山遺跡群ⅠとⅡ-1の調査がなされている。Ⅰの調査では弥生から鎌倉時代に至る全長60m、幅約7mを測る東西方向の自然流路や古墳時代の祭祀跡を検出した。遺物としては縄文晩期から弥生前期、古墳時代の土師器・須恵器・鉄製品が出土している。翌年のⅡ-1の調査では弥生前期の杭列、弥生から古墳時代の自然流路、古代の柵列を検出した。また弥生前期、中期中葉の土器が出土しており、幡多地域の弥生時代を考える上で貴重な資料を提示している。古墳時代では4～5世紀にかけて遺物が多く出土しているが、特に幡多では最大と思われる土師器の甕が出土しており、注目された。

本年度は具同中山遺跡群のⅢ調査区を東西の2ヶ所に分けた内の西側にあたる場所をⅢ-1として発掘調査を行った。土師器・須恵器など古墳時代の遺物が多く出土しているが、上層からは古代・中世の土師器、貿易陶磁器が出土している。今回はⅠ、Ⅱ-1に比べて遺物の量は少なく、明確な自然流路等は検出されなかったが、調査区の北部では幅約2m、長さ10mの範囲に土師器を中心とした遺物の集中が認められ、その周辺は砂礫を含む緑灰色層が溜りを形成している。その下層からは長さ約2, 5～3, 3m、幅13～15cmの木板製品が南北方向に3本連なるように検出された。2本にはほぼ同間隔で7～12cmの方形状の孔が施されており、1本は木板を立て、両側に沿うように木杭が打たれた状況で検出された。これらの木製品を境に集中層の堆積は薄くなっており、これらを止める土止めの役割をしていたものと考えられる。他県では同様の木板の孔に杭を通し、立て掛けた状態で導水施設として使用した例もあり今回は土止めの堰状遺構としてとらえられるが、来年度以降に行われるⅢ-2の調査結果をふまえて考えていく必要がある。

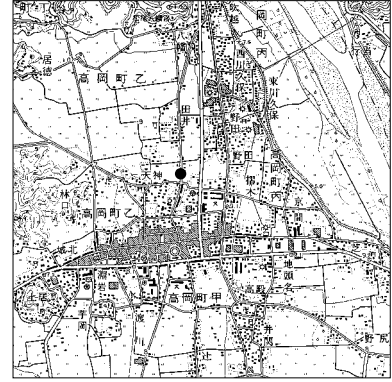


堰状土止の枝

いぬのば

犬ノ場遺跡 (97-4TI)

1. 所在地 土佐市高岡町野田
2. 立地 仁淀川右岸の自然堤防上
3. 時代 古墳, 古代, 中世
4. 調査期間 平成8年7月8日～9年2月28日
5. 調査面積 5,104m²
6. 担当者 廣田佳久・泉幸代・伊藤強・小野由香・田中涼子
7. 調査内容 犬ノ場遺跡は仁淀川の西約1kmに位置する遺跡で、土佐市バイパス建設工事に伴う平成7年度の試掘調査によって確認された。今回の調査では古墳時代から中世にかけての遺構、遺物



遺物が出土しており、特に緑釉陶器、湖州方鏡の出土は注目される。

古墳時代の包含層はなかったが、古式土師器の壺、甕、高杯がまとめて出土した。完形に近いものが多く、何らかの祭祀に関連するものだと考えられる。

古代はこの遺跡の中心となる時期で、8世紀後半から11世紀前半の遺物が主に遺跡の東半より出土している。なかでも8世紀後半の螺旋状と放射状の暗文が入った土師器の皿は県内でも珍しく、搬入品と考えられる。また、暗文はないものの精良な土師器片が多いこと、緑釉陶器が20数点出土していることから官衙関連の遺跡と考えられる。今回の調査では残念ながら古代の建物跡は確認できなかったが、本遺跡の付近には高岡郡では数少ない須恵器の窯跡である犬ノ場窯跡の存在が確認されており、須恵器生産に関わった役所が周辺にあった可能性も考えられる。

中世の遺構、遺物は遺跡中央部の微高地を中心にみられ、西に行くに従って地形が傾斜しており遺物包含層が薄く、遺構、遺物も少なくなっている。遺構、遺物が集中する微高地では建物跡や溝などが数多く検出されており、土師質土器、瓦器、東播系須恵器、青磁、白磁などが多数出土している。その他の遺物として県内初出土の湖州方鏡が注目される。出土した鏡は一辺9.1cmのほぼ正方形で、鏡背に「湖州真石家念 二叔青銅照子」と鋳出されている。また、この鏡と共に刀子、宋銭1枚、白磁1点、土師質土器の杯2点が出土しており、供伴した遺物から12世紀後半頃のものと考えられる。遺構は検出されなかったが、土坑墓に伴うものではないかとみられる。

湖州鏡は南宋時代に中国の浙江省の周辺で生産された鏡で、県内では円形(1面)と六花鏡(4面)の計5面が確認されているが、方形のものは県内初の出土である。方形の湖州鏡は畿内以東、特に日本海側からの出土が多く、当時の流通を考える上で貴重な資料となっている。また、神社に伝世されていることが多く、発掘調査によって確認されたという意味でも重要な発見である。



湖州方鏡

天神遺跡 (96-5TT)

1. 所在地 土佐市高岡町天神
2. 立地 扇状地性低地
3. 時代 中世～近代
4. 調査期間 平成8年7月4日～同年10月30日
5. 調査面積 2,439m²
6. 担当者 廣田佳久・泉幸代・伊藤強・小野由香・田中涼子
7. 調査内容 天神遺跡は建設省が計画している土佐市バイパス工事計画区域内に所在する遺跡



で、平成7年度に実施した試掘調査で確認された遺跡である。今回は天神遺跡を2つに分けた第I調査区（西半分）を調査し、弥生時代から現代までの遺物や遺構が検出された。遺構の主体をなすのは中世（鎌倉・室町時代）で、掘立柱建物跡2棟、堀跡4列、土坑や柱穴、多数の溝状遺構などを確認した。出土遺物は土師質土器を中心に瓦器や須恵器、陶磁器など10,500点を数えた。これらの多くは調査区の中央部、低湿地の縁辺部に当たる部分から出土したもので、溝状に堆積しており、土器溜り状を呈していた。

遺跡の特徴の1つとして、瓦器の出土量の多いことが挙げられる。瓦器はいぶし焼きによって表面が灰黒色になる土器で、平安時代から室町時代初めにかけて近畿地方を中心に生産されたものである。出土した瓦器は鎌倉時代のもので、完形品は少ないものの細片は約250点にのぼり、県内における出土量としては上位に属する。瓦器は椀と小皿が出土しており、そのほとんどが和泉型といわれる畿内産のものである。そして、瓦器と共に東播系須恵器、常滑焼、備前焼など県外からの搬入品が多く認められた。また、中国からの貿易陶磁器の白磁、青磁（龍泉窯系）、青花（染付）、古銭（天禧通宝、治平通宝）なども出土しており、国内はもちろん海外との交流もなされていたことが窺える。

当調査地区は南西部と東部が高く、北東方向に向かって傾斜しており、北東部は低湿地となっている。遺構は南西部の微高地上に位置し、掘立柱建物跡、堀跡、溝状遺構等が残存することから屋敷跡の一角と考えられる。掘立柱建物跡の1棟は2間×3間の住居跡で、もう1棟は2間×1間の倉庫と考えられ、出土遺物から13～14世紀にかけて機能していたものとみられる。これらの遺構は「長宗我部地検帳」に記載されている「中屋敷」よりさらに遡るものであり、地検帳以前の土佐市の様相解明に貴重な資料を提供している。



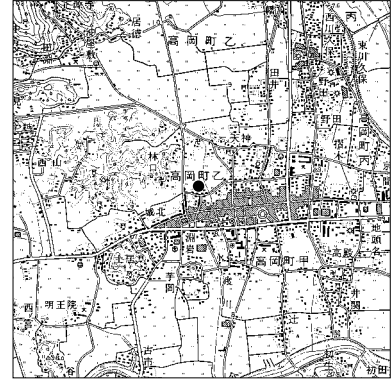
瓦器（和泉型の椀）出土状況



遺構完掘状態（西より）

林口遺跡 (97-6TH)

1. 所在地 土佐市高岡町林口
2. 立地 沖積平野
3. 時代 中世～近世
4. 調査期間 平成8年11月19日～平成9年2月8日
5. 調査面積 2,717m²
6. 担当者 廣田佳久・泉幸代・伊藤強・小野由香・田中涼子
7. 調査内容 土佐市バイパス工事に伴って発掘調査されることになった遺跡で、本年度の調査ではその南側に当たる部分が調査対象地となった。今回の調査地区は「長宗我部地検帳」に記載されている「御所ノ内」に該当し、さらに隣接地には「和田屋敷」や「中屋敷」などの屋敷名も見られ、



屋敷跡等の存在が推測される箇所ので、本調査に先だって行われた試掘調査でも13世紀を中心とする遺物を伴う遺構が検出されており、当該期の屋敷の存在が予想された。調査の結果、屋敷を区画していたと考えられる堀跡や南北に延びる大溝さらに井戸跡など多数の遺構を確認することができた。これらの遺構は、その出土遺物から中世(12～15世紀)、近世(18～19世紀)、近代(20世紀)に分かれる。

まず、中世の遺構は堀跡の内側を中心に掘立柱建物跡数棟、土坑6基、溝状遺構11条、多数のピットがある。屋敷を囲むとみられる堀跡は西側と南西隅を確認することができ、その遺存状況から一辺40m以上に及ぶものと見られ、深さも検出面から1mから深いところで2mを越す部分もみられた。さらに、拡張した痕跡も確認された。屋敷の中心部は、後世の開墾によって30cm以上削平されており、母屋、倉庫など建物構成を確認することはできなかったが、屋敷の北東部とみられる部分から石組の井戸跡が検出された。この井戸は基底部に桶側の井筒を設置し、川原石を積み重ねたもので、深さは約4mあり、下層の砂礫層まで掘削していた。石組には川原石に混じって中世でも比較的新しい時期とみられる火輪(五輪塔)が転用されており、桶の使用と考え合わせると屋敷内では比較的新しい時期のものとみられる。この他には土師質土器、瓦器、白磁、同安窯系・龍泉窯系の青磁、石鍋、下駄などの遺物がみられた。

近世の遺構は調査区の西部、中世の屋敷跡の西側を中心に分布し、井戸跡1基、土坑6基、溝条遺構2条と多数のピットを確認した。今回確認した井戸跡は円形桶側積み上げ型井戸と呼ばれるもので、



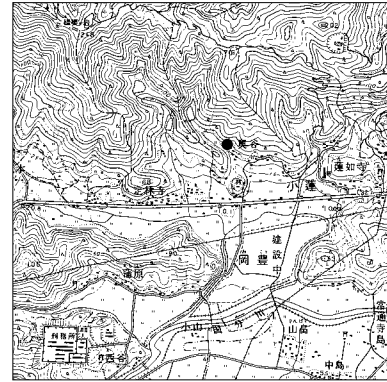
調査区全景

桶側を6段重ねており県内では初めて発見されたものである。桶側は一回り大きいものを上に重ねており、約10cmほどを重複させ、最上層部の桶側の上には簡単な石組を行っていた。桶側は31～34枚の板で、上下2ヶ所を竹釘で接合した上で、外側上下2ヶ所を箍で固定していた。又、土坑の中には人間の歯や板材が残存した座棺(早桶)とみられる土坑墓がみられた。

近代の遺構は昭和の初め頃に造られたとみられる暗渠の跡で、調査区全域で10条が残存していた。排水を改善しようとしたことを物語っている遺構である。

奥谷南遺跡 (96-7NOM)

1. 所在地 南国市岡豊町小蓮奥谷字清山
2. 立地 南東に開く谷にある丘陵先端部
3. 時代 旧石器時代～近世
4. 調査期間 平成8年4月2日～平成8年10月17日
5. 調査面積 3,000m²
6. 担当者 松村信博・山本純代



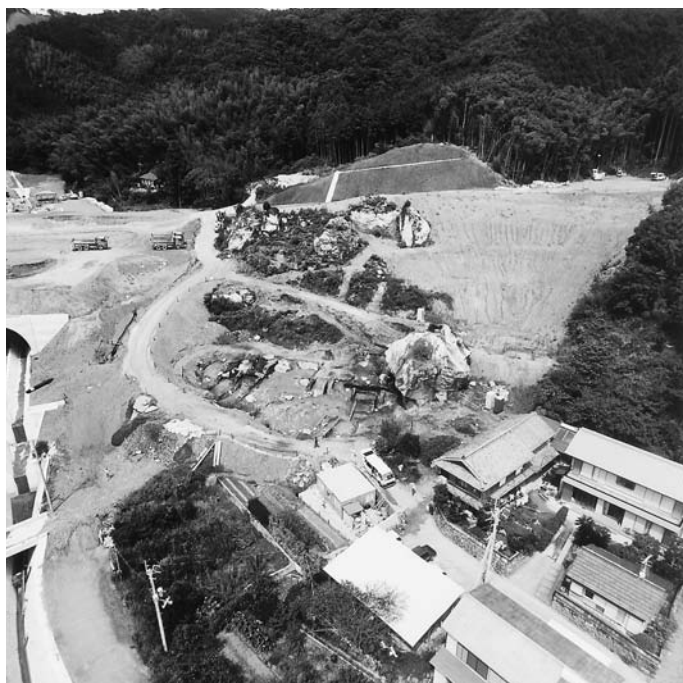
7. 調査内容 四国横断自動車道建設に伴う2ヶ年の調査で、縄文中期(貯蔵穴)・弥生中末(高地性集落)・弥生終末(石室墓)・古代(山岳寺院)など各時代の多岐にわたる遺構・遺物が確認されている。さらに最終年度に岩陰からナイフ形石器・細石器・縄文土器(早期)が層位的に出土、調査地点が旧石器時代から縄文時代にかけての岩陰遺跡であることが判明した。

岩陰は2ヶ所あるが、1ヶ所は現存しない。現存する岩陰は高さ8mのチャートの巨岩で、周辺の斜面には数m大の岩が点在している。遺物は2つの岩陰とその周辺から集中して出土する。岩陰には縄文後期の落盤層が堆積、その下には縄文早期の黒褐色土(VII層)が厚く堆積する。黒褐色土の下層、褐色土(VIII層)から細石器、黄褐色土(X～XII層)からナイフ形石器が出土した。岩陰は長期にわたって断続的に生活の舞台となっていたようである。

旧石器時代の遺物は、後期旧石器時代後半期のAT上層から旧石器時代終末にかけてのものである。ナイフ形石器・角錘状石器・スクレイパー・槍先形尖頭器・細石刀・細石核などが確認された。ナイフ形石器は全部で60点、その多くがチャート製で、搬入品は頁岩製のものだけである。角錘状石器を伴うものと小型のナイフ(ナイフ形石器終末)の2時期があり、細石器文化期とあわせて、当遺跡の旧石器時代に少なくとも3時期が存在することがわかった。

細石器文化期の遺物は、細石刃400点、細石核144点などが確認され、VIII層出土石器類は13,000点に達した。細石核は野岳・休場型と船野型に分類され、旧石器時代終末に位置付けられる。遺物は岩陰と前庭部に集中、砂岩製のハンマーストーン73点が出土し、焼土も5ヶ所検出されている。岩陰は石器製作に関する空間だった可能性が高い。

高知平野の旧石器時代遺物は、従来細石核1点が知られるのみで、当時の状況は不明であった。奥谷南遺跡出土資料から、高知平野の石器が旧石器時代を通じて瀬戸内ではなく太平



奥谷南遺跡全景(航空写真)

洋岸の地域と類似することなど興味深い事実が判明した。出土した4万点程の石器類の分析で、旧石器時代の南四国の様相が少しずつ明らかになるうとしている。

縄文時代の遺物としては、総数1,000点ほどの土器と数千点の石器類が出土している。草創期前半の隆起線文土器、隆帯文土器、早期前半の押型文土器、後半の手向山式・穂谷式、繊維土器、平椀式土器（四国で初めての出土）、前期初頭の轟B式、羽島下層式など、草創期から後期に至る各時期の土器が確認された。



出土遺物（細石器文化期）

縄文時代で特筆すべきは、岩陰南側斜面に掘り込まれた長軸2.5mほどの草創期の遺構の存在である。この遺構から剥片など1,500点余りの石器類とともに隆起線文土器と隆帯文土器、石鏃、細石刃、細石核が出土した。細石器については混入の可能性があるものの、草創期前半の土器と石鏃が共伴するこの遺構はいくつかの問題を提起している。出土した隆帯文土器は南九州との類似を指摘され、鹿児島県の掃除山遺跡と立地が似ていることから住居の可能性も考えられている。縄文時代草創期前半約1万1,500年程前の南四国に、定住の度合いは低いものの遺構を伴うキャンプ地的な遺構があったことは、当地域での定住の始まりを考える上で重要である。南九州との類似点・相違点（石鏃形態の相違など）を整理した上で、この遺構の持つ意味を考える必要があるだろう。早期遺構の包含層中からの出土ではあるが局部磨製石斧や槍先形尖頭器、有溝砥石など草創期に属する遺物も確認されている。上黒岩岩陰や不動ヶ岩屋洞穴の例など四国の草創期遺跡からは有舌尖頭器が検出される例が多いが、今回の調査では有舌尖頭器が1点も出土していない。当遺跡は四国山間部の草創期遺跡とは異なる様相を示している。

奥谷南遺跡では利用石材の9割以上をチャートが占め、搬入石材は旧石器時代までは、四国西南部の頁岩のみであった。ところが縄文時代草創期以降にサヌカイト、早期以降に姫島産黒曜岩とサヌカイトが搬入されるようになり、頁岩がほとんどなくなる。この搬入石材の変化は旧石器時代から縄文時代への生業・生活様式の変化に対応したものだろうか。

今後整理作業を通して明らかにすべき課題は多いが、高知平野の旧石器時代から縄文時代草創期にかけての空白を埋めるものとして、今回の調査は大きな意義を持っている。

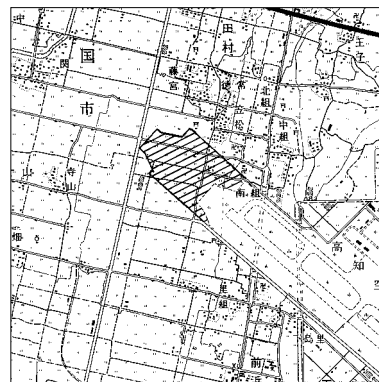


縄文草創期遺構

たむら

田村遺跡群 (96-9NT)

1. 所在地 南国市田村
2. 立地 物部川下流新規扇状地
3. 時代 縄文時代～近世
4. 調査期間 平成8年8月5日～9月17日 (試掘調査)
平成8年10月29日～平成9年3月28日
5. 調査面積 19,755m²
6. 担当者 森田尚宏・田坂京子・小島恵子・前田光雄
三橋麻里・坂本裕一・吉成承三・坂本憲昭



7. 調査内容 田村遺跡群は高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として行われた。高知空港拡張整備事業は滑走路の2,500m延長事業であり、昭和59年の1,500mから2,000mへの拡張からの再拡張である。前回の拡張に伴う発掘調査では、弥生時代と中世を中心とする遺構・遺物が多量に発見されており、田村遺跡群は県内における弥生時代最大の拠点集落であり、中世においても守護代細川氏の居館である田村城館を中心とした屋敷群が検出されるなど、今までにない多大な成果をあげている。

今回の拡張範囲は滑走路を西へ500m延長するものであり、空港の拡張範囲全体では約24万m²の拡張が予定されている。この拡張範囲の中では、現進入灯部分等において前回の調査時に弥生時代中～後期の堅穴住居跡等が検出されており、また本体部分の調査においても弥生時代後期前半を中心とする集落等が確認されているところから、今回の調査では弥生時代中～後期の集落全体がかかるものと考えられたが、拡張範囲全体における遺跡の分布密度については不明であった。このため、本調査に着手する以前に拡張範囲全体を対象とした試掘調査を行うこととなった。

試掘調査は現地の状況に応じて対象地を決定し、8～9月に第1次試掘調査を行った。この試掘調査の結果、遺構・遺物の分布は拡張範囲のほぼ東半分であることが確認されたが、未買収地等もあり全体的状況を十分に把握するまでには至らなかった。また、本調査と並行して平成9年2～3月に第2次試掘調査を行い、試掘調査面積は2,368m²であった。10月には試

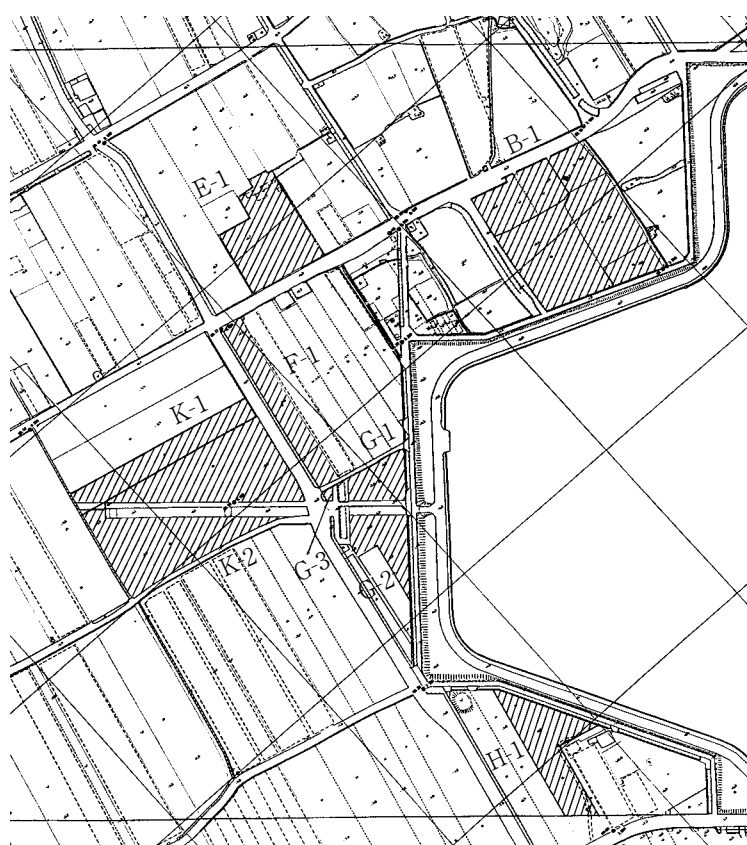


図-1 田村遺跡群調査区位置図 (S=1/4000)

掘調査の結果と用地買収状況を考慮して本調査対象地を決定し、調査準備にかかった。

本調査は10月末に着手したが、作業員による遺構等の検出・掘削は12月からであり、現場を終了したのは3月末である。本調査面積は17,387㎡であり、調査区はB-1区～K-2区の9箇所であった。次に各調査区の調査結果を述べる。

B-1区では弥生時代前～中期と中・近世の遺構が検出された。調査区は現空港の西端、北東部に位置し、弥生時代前期の集落である西見当遺跡の南に隣接している。弥生時代前期の遺構としては土坑が検出されている。また、中世の守護代細川氏の居館である田村城館の南でもあるため、関連する遺構の存在が予想されていたが、1辺が25m以上の溝に囲まれた屋敷跡が検出された。北辺は幅3m、深さ2mと規模が大きく濠と言える。また多数の柱穴が検出されている。E-1区では弥生時代中期末～後期の直径5m前後の円形住居跡が3棟検出された。住居跡からは内行花文鏡と思われ鏡片やガラス小玉等が出土している。調査区の東半部では多量の遺物を出土する自然流路が検出され、F-1からK-1区へ続くものである。F-1区でも中期末～後期前半の長径5～6m程の円形住居跡が8棟検出された。この中で4棟は切り合っており、床面に焼土・炭化材等が検出され、焼失住居とみられる。また長軸方向を東に振った長径3m程の溝状土坑が検出されており、多量の遺物を出土している。G-1・2・3区は空港西端部に隣接する調査区であり、やはり中期末～後期の住居跡5等が検出されている。5棟中3棟は円形、2棟は隅丸方形であり、焼土・炭化物が床面上に検出される住居跡もあることから、やはり焼失住居と考えられる。H-1区は空港の南側の調査区であるが、縄文時代後期中葉の遺物が南半部で集中的に出土し、遺構としては土坑・焼土が検出された。土器は沈線文を中心とするものであり、石器としては石錐が約100点と多量に出土しており注目される。K-1・2区は進入灯の両側であり、住居跡53棟・土坑約180基・溝・ピット等多数の遺構が検出された。住居跡は円形と隅丸方形がみられ、円形では直径8m以上の大形住居が存在する。住居跡からは土器・石器以外にガラス小玉・鉄斧等も出土している。長径3m程の溝状土坑も十数基検出されており、一定の方向性が見られる。多量の遺物とともに多量の焼土を含んでいるものもあり、その性格については検討が必要である。

今回の調査では、現空港の西端部寄りを中心に発掘が行われた。用地の関係上まとまりに欠けるので全体的様相は不明な点が多いが、縄文時代後期の遺構・遺物の集中ブロック、弥生時代中期～後期の集落跡、中世の屋敷跡等が検出されており、特に弥生時代の集落は全体として69棟の住居跡が確認され、田村遺跡群は弥生時代を通じて高知県最大の拠点集落であることが再確認された。個々の遺構及び全体的な検討は調査の進展に応じて行わなければならない、今後の調査に期待される。



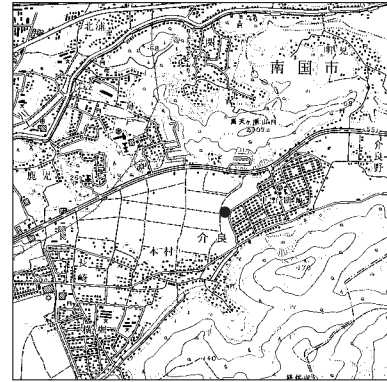
K-1区調査状況



F-1区調査状況

介良遺跡 (96-10KK)

1. 所在地 高知市介良乙353
2. 立地 介良川（下田川）水系の沖積地
3. 時代 弥生・古墳・古代・中世
4. 調査期間 平成8年5月7日～11月18日
5. 調査面積 3,000m²
6. 担当者 田坂京子・坂本憲昭
7. 調査内容 介良遺跡は、高知市の浦戸湾を挟んだ東部に位置する遺跡である。介良遺跡は高知市が平成3年に行った遺跡分布調査によって発見された。分布調査によると介良遺跡は中世から古墳時代の遺物の散布地である。遺物の散布範囲は広く、高知市でも最も広範囲な遺跡の一つである。



介良遺跡は、高知市の浦戸湾を挟んだ東部に位置する遺跡である。介良遺跡は高知市が平成3年に行った遺跡分布調査によって発見された。分布調査によると介良遺跡は中世から古墳時代の遺物の散布地である。遺物の散布範囲は広く、高知市でも最も広範囲な遺跡の一つである。

調査が行われることとなったのは、遺跡の東端に流れる介良川が「ふるさとの川モデル事業」によって河川改修工事とともに周辺の公園化が図られることとなったため、本調査に先立って平成7年に試掘調査が行われ、古墳時代の遺物を中心に弥生時代前期から中世までの遺物が出土した。特に木器の残存状況が良好で中世と考えられる木簡が出土している。この様な結果を受け、河川改修事業によって遺跡が影響を受ける約12000m²を対象に本発掘調査がおこなわれることになった。

平成7年度に行われた発掘調査は、調査対象区約12000m²の内、調査対象地の南側約3000m²を対象に行われた。検出された遺構は溝状遺構1条、土坑1基、流路跡1条（旧介良川川道）と、1m×1.2mの楕円形のプランで約12cmの貝層を持つ非常に小規模な貝塚状の遺構が確認された。この他、河川祭祀遺構に関わる可能性のある5C代半ばに比定される完形の須恵器甕が出土している。

溝状遺構、土坑からは外面叩き調整の弥生時代後期の甕などが出土した。また溝状遺構からは破鏡と思われる内行花文鏡の一部が出土しており注目される。貝塚状遺構からは6C～7Cの須恵器蓋などが出土している。旧流路からは白磁区類の時期から弥生時代までの遺物が出土し、古墳時代の遺物とその多くを占める。旧流路跡出土遺物で注目されるものは、高知平野で最古級となるTK216号窯に比定される初期須恵器である。高知県で初期須恵器の出土例は高知県西部地域のみであったため今回の出土は須恵器受容を考える上で大きな成果となった。また、木器はその残存状況が良好で種類も多く出土している。特に農具は高知県で初めての出土になったナスビ形農具や古墳時代の農耕への牛馬使用の可能性を窺わせる首木が出土するなど貴重な資料を得ることができた。

今回の調査では直接集落の一部の遺構は確認できなかったが介良地区は古浦戸湾のウォーターフロントに位置し、弥生時代後期にはすでに舶載鏡を持つ集落が営まれ、古墳時代には初期須恵器やナスビ形農具など畿内の影響を受けるなど順調に社会発展し古代・中世の介良郷に繋がると考えられる。

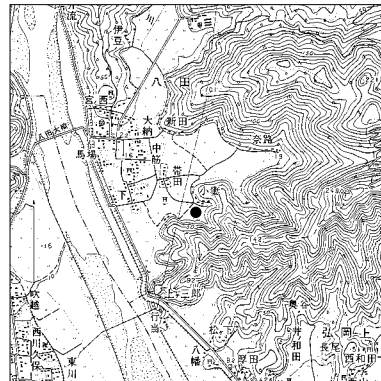
中世の集落は遺物の出土状況などから介良川の下流側に位置していた可能性が高いと考えられる。



須恵器 出土状況

八田神母谷遺跡 (96-11IHI)

1. 所在地 吾川郡伊野町八田字神母谷
2. 立地 仁淀川左岸後背湿地
3. 時代 縄文時代後期～近世
4. 調査期間 平成8年4月1日～平成9年2月28日
5. 調査面積 5,136^m²
6. 担当者 小嶋博光・山本雄介・久家隆芳・下村裕
7. 調査内容 平成7年度に引き続き調査を実施した。今回は平成8年度の調査成果を中心に述べていきたい。



今回の調査では縄文時代晩期・弥生時代中期・弥生時代後期～古墳時代前期・中世の4時期の遺構を検出した。各時期とも自然流路が主体であるため、当調査区は集落の周縁部と考えられる。遺物は縄文時代後期から近世にかけてのものが出土した。

弥生時代後期～古墳時代前期の自然流路からは多くの土器が出土した。多くの在地産の土器に混ざり、畿内産の甕1個体が出土した。畿内産の甕は平成7年度調査でも、1個体出土している。両者の胎土を肉眼で観察する限り違うものであり、生産地の違いを反映したものであろうか。また、地域編年を考えるうえでも貴重な資料である。当該期の木製品も多く出土した。ナスビ形木製品（曲柄鋤）の農具類、建築部材等が出土した。ナスビ形木製品は刃部が三つ又にわかれるタイプのもので、全長67cm、最大幅約17cm、最大厚約1.6cmを測る大型のものである。

中世では焼土坑・自然流路2条を検出した。焼土坑は長径約110cm、短径約90cmの平面楕円形を呈する。埋土には厚い部分で約2cmの炭の堆積が認められた。この土坑の付近からフィゴの羽口片が出土した。

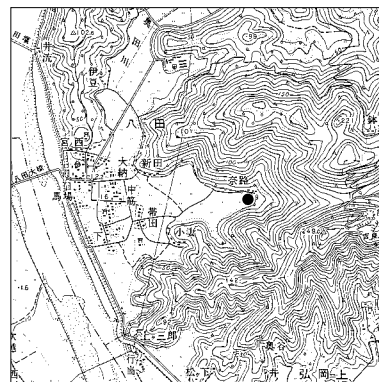
特記すべき遺物として、縄文時代後期の四国西南部に分布の中心がある伊吹町式土器がある。弥生時代前期では木葉文を施した壺が2点出土した。これらの他にも、同時期の壺・甕が数点、出土している。仁淀川流域においても比較的早い段階で稲作農耕を受容していたと考えられる。古代では墨書土器が2点出土した。1点は須恵器の坏底部外面に「東」と書かれており、さらにもう一字あるようだが、欠損のため判読不明である。他の1点は土師器底部外面に墨痕が認められたが判読不明である。これら2点の土器はともに同一地点から出土した。



八田神母谷遺跡は、仁淀川に面し立地する。その立地を十分活用し、情報・文物を入手していたようである。今回の調査では堅穴住居等は検出されなかったものの、周辺には集落が展開していたものと推定される。

はたなろ
八田奈呂遺跡 (96-12IHN)

1. 所在地 吾川郡伊野町八田
2. 立地 谷に挟まれた尾根から低湿地への緩斜面
3. 時代 弥生時代・古代～近世
4. 調査期間 平成8年4月～平成9年3月
5. 調査面積 約28,000m²
6. 担当者 大野佳代子・江戸秀輝



7. 調査内容 八田奈呂遺跡は、仁淀川の東岸、伊野町と春野町の町境になる山の北側の谷部分の緩斜面に所在している。南北を谷に挟まれた尾根部から低湿地にかけて展開している。今回の調査は、四国横断自動車道建設工事に伴う事前の発掘調査で、昨年度の試掘調査の結果を基礎資料とし、本調査を実施した。

今回の調査では、遺構は近世の溝跡・土坑、中世の道の跡・溝跡・土坑・柱穴・石列・集石、古代以前の流路・溝跡・土坑・柱穴などを検出した。中でも中世の柱穴は集中して約500という数が検出された。遺物は、近世の輸入陶磁器(碗・皿)・国産陶磁器(碗・皿・甕・壺・播鉢など)・銅銭・砥石など、中世の土師器(坏・皿・鍋・土錘)・備前焼(甕・播鉢)・瓦質土器(碗・鍋・釜)・青磁(碗)・白磁(碗・皿)・石鍋など、古代の土師器(坏・皿)・須恵器(坏・甕)、弥生土器(甕)、石器などが出土した。まず弥生時代は、試掘の際には流路及び土坑を検出したが、今回、遺物を伴った遺構を検出することがなく、弥生時代の集落の中心は本調査範囲の周辺に存在すると思われる。古墳時代から古代については、隣接する八田栃谷遺跡では多量の古墳時代の遺物が出土していたのだが、ここでは見られず、また古代は遺物の出土はあるものの、それを伴った遺構はなく、弥生時代と同様に推測される。中世については、今回の調査で最も多くの遺構・遺物を検出しており、出土遺物の内容(輸入陶磁器の多さ)などからも、当時の有力者の屋敷を伴う多くの掘立柱建物の建つ集落が存在していたと考えられる。近世については、出土遺物から検討すると、土地の有力者でなければ手に入らないであろうと言われる輸入陶磁器もある。中国福建省の漳州窯の陶胎染付の皿や、景德鎮の染付の碗などが出土している。また、県内産、国内産の各種の陶磁器が数多く出土している。

中世については、近くに中世城跡などもあり文献には、この地の有力な武士の屋敷があったという記録もある。また、江戸時代になると、当遺跡の南側の山が、山内家の狩り場であったという話もあり、そのことと、今回の出土遺物と、土地の有力者との間の関係が考えられる。

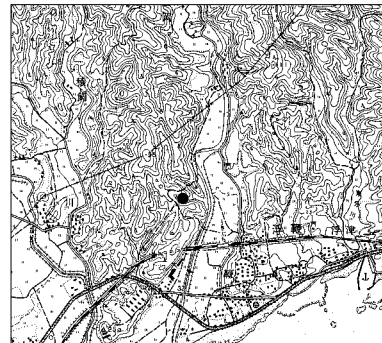
永き時代にわたって人々の生活が営まれた場所ということは確かである。



遺構完掘状況

曾我城跡 (96-16SC)

1. 所在地 幡多郡大方町浮鞭城ノ谷口843~873
2. 立地 丘陵
3. 時代 中世
4. 調査期間 平成8年7月15日~10月9日
5. 調査面積 2,335m²
6. 担当者 山崎正明・武吉眞裕・竹村三菜



7. 調査内容 曾我城跡は、南行する湊川右岸にむけて、細長く派生した丘陵尾根の先端に立地している。その両サイドには深くまで谷が入り込み、他の丘陵部分から孤立したような地形を呈しており、この地形的特徴をうまく利用して山城が築かれている。また、標高約45mの詰からは、前方の集落や河川に対して展望が大きく開けており、この地取りが築城の目的を示しているように考えられる。曾我城跡周辺の歴史地理的側面や城郭研究（縄張り）等からのアプローチから見ても、当遺跡周辺は城が形成される以前から、西南四国における政治・経済上の重要な地域であったことが看取でき、前面の湊川は交通・物流の大動脈であったことが窺えると同時に、築城期に当地を抑える必要性があることは言うまでもないところである。また、城は湊川の河口を臨む位置にあり、湊川や海との関連性が強く想定される。

曾我城跡は、標高約45mの詰を中心として、これに付随するかのようになんらかの曲輪が構築されている。詰では13基の柱穴が確認されており（試掘調査）、数棟の掘立柱建物が構築されていたことが窺える。曾我城跡の遺構の配置を見てみると、湊川へ向けての前方部、背後の尾根側、比較的緩斜面である南側谷部の3点に、防御の意識を強く注いでいる様相が看取できる。今次調査は、工事変更や度重なる調整の結果、主体部から外側の尾根伝いの防御ライン（面）を中心に行った。この防御ラインは、堀切を中心として内側に2郭及び詰（土塁）、外側には平坦部（1~4）が構築されている。堀切は鞍部の最狭部に設けられ、防御の要を成している。その下底は（後の水道管理設工事によって）既に破壊を被るが、ほぼ薬研堀で相違ない。その上、2郭側を高く築き、しかも傾斜をきつくする等の工夫を凝らしている。狭い尾根線は更に削整を加え、土橋状の効果を持たせているようである。更に段差（平坦部1~4）を持たせることで迎撃を有利なものにしているようである。また、この段差は堀切の一部（範囲）、或いは尾根伝いの退路としての機能も考えられる。何れにせよ、山城としての効果を達成するため、うまく自然地形を利用して2重・3重の工夫を凝らしていることが見えてくる。出土遺物は少ないものの、全体からいえば青磁（龍泉系諸窯）の占める割合が多い。中でも、ピット・堀切から出土した青磁（稜花

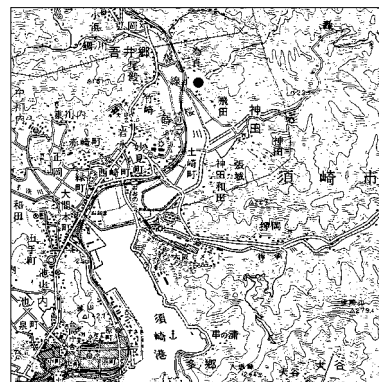


曾我城跡遠景

皿・碗）は城の年代を推定でき、その時期は15世紀後半~16世紀前半である。他にポイント（旧石器）・石鏃（弥生）・須恵器（古代）・土師器・土錘や近現代の遺物が出土・表採されている。この曾我城跡築城の時期に、幡多地域において一定のパターンを持った城が存在するようである。河川の側の同じ立地場所に、同一規模を持ち、しかもこれらは全て短命で地検帳に記載が少ない事も一致する。その規則性からは、一定勢力の関わり（一条氏との繋がり）、更には城の機能性までも推定することができる。今次調査の成果は、西南四国の山城の在り方を示す一つの指標となろう。

飛田坂本遺跡 (96-21SHS)

1. 所在地 須崎市神田飛田字坂本・吾桑為貞
2. 立地 桜川左岸流域段丘
3. 時代 弥生・古代～中世
4. 調査期間 平成8年9月17日～平成9年3月31日
5. 調査面積 4,000m²
6. 担当者 小嶋博満・下村裕



7. 調査内容 今回の調査は、四国横断自動車道道路（伊野～須崎間）建設に伴うものである。当遺跡では、過去に弥生時代の青銅器（中広形銅銚2本）が出土している（飛田字坂本）。また、室町時代中期の角塔婆（須崎市史跡）が所在し、須崎市内に現存する板碑では最も古く年代も明確である（明応5年銘・1496年）。

平成7年度の試掘調査の結果、中世の遺物（瓦器、中国製青磁、土師質土器）が多数出土し、掘立柱建物址、溝状遺構等の存在が確認されたため本調査を実施した。

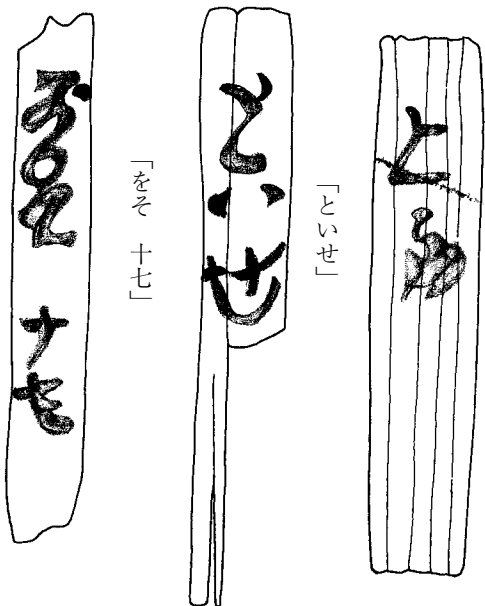
今回の調査の結果、弥生時代の遺構は検出されなかったが、中期後半の神西式土器が包含層から数十点出土し、東側丘陵斜面に高地性集落等が形成されている可能性がある。なお、土器片は斜面からの流れ込みと思われる。古代については、調査区の東側上段から在地産の須恵器碗（墨書土器。底部外面に「□道」と記され、「廣道」か。）が出土し、時期は8世紀末～9世紀末に属するものとみられる。

中世では多数の柱穴、掘立柱建物址4棟、土坑2基、溝状遺構10条、石垣2基、集石遺構等が確認されている。柱穴は円形、楕円形で径20cm～40cmで深さは30cm～40cmを測る。埋土は暗褐色である。掘立柱建物址は東側上段で4棟を確認。2間×2間が3棟、1棟は1間×1間で倉庫と思われる。土坑のうちSKIからは短刀と土師質土器が出土。短刀については使用目的ははっきりしないが祭祀的要素が強い。溝状遺構は、長さ1m～6m位、幅20cm～50cm位、深さ10cm～30cmで遺物はほとんど含まれていなかった。石垣は、調査区の西側（下段）で確認された南北に延び大きな石を一段に積み長さ5～6mを測るものと、北西に延び小さな石を一段に積み長さ10m位のもので、周辺に土師質土器が多数確認された。集石遺構（SX1～7）は、5～20cm大の小石の集まりで、円形、楕円形、方形を呈し、面積は、4m²～20m²を測る。小石の間には遺物が多数含まれるが（土師質土器多数、瓦器、青磁少量）、遺構の性格は判然としない。なお遺物では、畿内産の瓦器、中国産の青磁が多数出土し、その他に土師質土器、備前、常滑、東播系須恵器等も確認でき、当該期の資料が少ない県下の土器編年を考える上でも良好な一括資料を得ることができた。

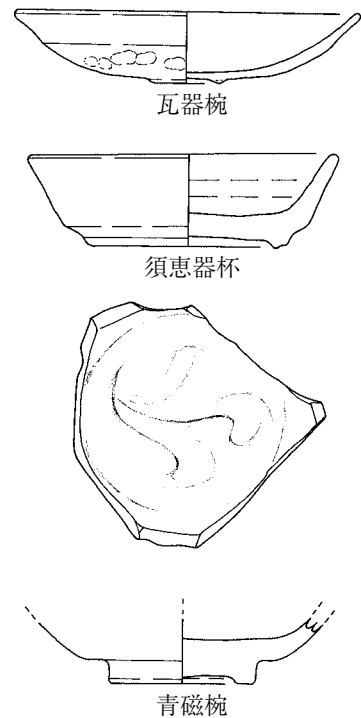
出土遺物と検出遺構から、鎌倉から室町時代にかけて流通の拠点となる集落が当遺跡周辺で展開していた可能性が大きい。また、奈良末～平安期の墨書土器の出土は注目される。

なお、近世では、「おそいて」「きのくに」「上米」「おそ十七」などの墨書を記した木札が旧耕作土中から出土した。これらの近世木簡については、水稻耕作にかかわる直接的な資料として重要である。特に中世から近世、近代にかけてこのような資料がほとんど現存していない事からすれば、稲作にあたっての品種改良、作付けや収穫時期などにただならぬ苦心を払った近世農村の農耕の実態に

ついて有益な示唆を与える資料として評価することができる。民俗史や農業史、産業史などの研究分野からも今後各方面から重要視されるものと考えられる。



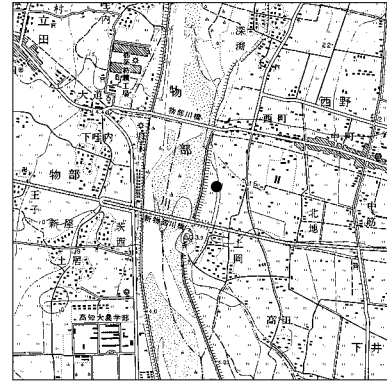
木簡実測図 (1/4)



出土土器実測図 (1/3)

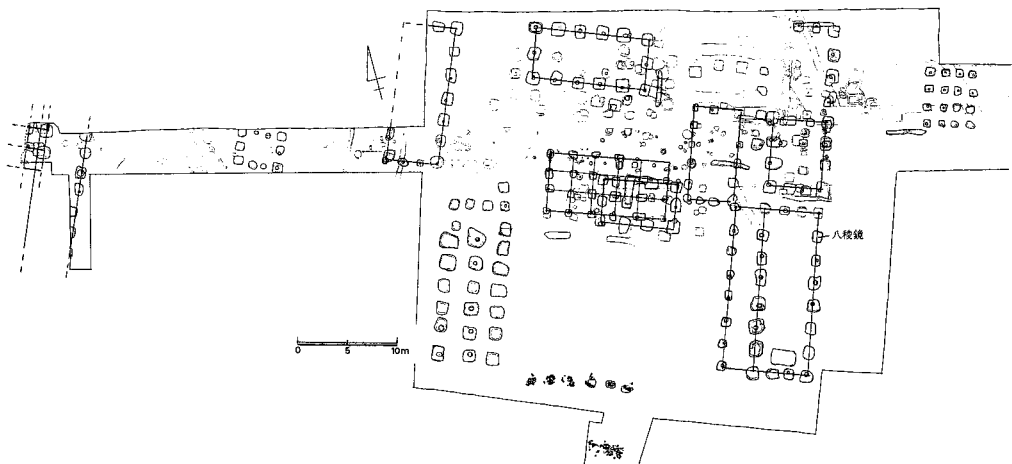
下ノ坪遺跡 (95-8NS)

1. 所在地 香美郡野市町上岡
2. 立地 物部川東岸の沖積平野
3. 時代 弥生, 古墳, 奈良・平安時代
4. 調査期間 1996年4月8日～1996年7月31日
5. 調査面積 3,600m²
6. 担当者 小松大洋(野市町教育委員会)・出原恵三・池澤俊幸・行藤たけし



7. 調査内容 高知県中央臨海部の香長平野は、縄文時代後期以降近世に至るまで、南四国の歴史の中心的舞台となった地域の一つである。現在の下ノ坪遺跡は、土佐湾より物部川を約3km遡行した河川沿いにある。本遺跡は、94年度より野市町教育委員会によって行われた団体営圃場整備事業に伴う発掘調査により、初めてその内容が明らかにされた。検出された主な遺構は弥生時代から中世までの堅穴住居址・掘立柱建物群・溝・土坑・流路跡等であり、特に遺構の集中する中央部に当たるH区を中心に、多数の遺構が重層的に検出された。94年度の調査では、カマドを持つ堅穴住居址が良好な状態で検出されている。また各時代の遺物も鉄器・勾玉・ガラス小玉、各種陶硯・緑釉陶器・革帯装飾具・銅鏡、及び多量の土器が出土した。今次調査の最終となる96年度は、残る遺跡南部に調査のメスを入れるとともに、前年度に多量の遺物と古代の大型掘立柱建物群の一部が検出された中央部(H区)において調査区を拡張し、建物の確認を試みた。その結果、整然と配置された大型掘立柱建物群が次々と確認され、その柱穴より八稜鏡や量産化以前の緑釉陶器が出土した。

まず、弥生時代後期前葉では新たに8棟の堅穴住居址が検出され、その総数は17棟となった。調査面積は遺跡全体の1割にも満たないが、ほぼ全ての調査区で住居址が検出されたので、100棟を超える住居が土器型式で3小期程度の間で営まれたという想定も可能である。住居址の平面形は円形または隅丸方形を呈する。また17棟中の6棟からはガラス小玉が出土し、その総数は130点を超えた。一



下ノ坪遺跡・H区 古代掘立柱建物配置図

遺跡からのガラス製品の出土数としては四国でも現在最多であり、集落址全体に埋蔵される量にも想像が及ぶ。科学分析の結果、ガラスはカリガラスに分類されるもので、青紺色のものはコバルトによって着色されていること等が判明している。

また、弥生時代で今一つ注目すべき点は讃岐平野からの搬入土器が多数出土していることで、田村遺跡から少量出土した例を除けば、今回のような多数の出土は本県で初例である。

次に古代では、H区とその拡張区で検出された掘立柱建物群が注目される。後述する八稜鏡が出土した建物は桁行約17m、柱穴は1片1.1～1.7mで柱間距離は2.1mを基本にするとみられる。当区の中央部南東寄りには建物が検出されない空間があり、その南側には礫の集中部が検出された。また、建物と方向をそろえた溝や土坑が複数検出され、その中には多数の土器が廃棄されていたものもある。遺構群は、当区全域の東西100m余りにわたって展開している。なお、図版1からもわかるように、遺跡は更に西方へ展開していた事が確実であるが、現況は河川となっている。

先述の鏡は約3分の2を欠損しているが、長岡京・太宰府出土鏡、及び正倉院所蔵鏡と同型式の四仙騎獣八稜鏡である。柱穴埋土上層より出土した。また、他の掘立柱建物の柱穴から、いわゆる緑釉単彩陶器の火舎が出土している。

古代の遺物について青銅製品の出土以外に特徴的な点を挙げると、1) 畿内からと思われる搬入品が一定量出土している。2) 土師器には赤色塗彩されたものが比較的多い。3) 硯は円面硯・風字硯・転用硯が確認されている。4) 製塩土器（砲弾型）が非常に多い。5) 鞆羽口やスラグ、鉄砧石が出土した土坑の存在等が挙げられる。

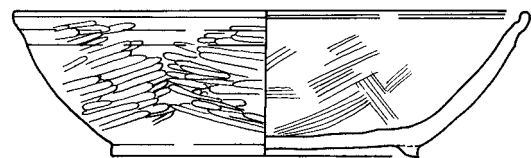
古代の遺構群の年代については現在確定できる段階にないが、多くは概ね奈良時代に盛行するものと捉えられ、その後平安時代中葉や中世の遺構・遺物を若干遺しながらも、遺跡は急激に衰退している。

遺跡周辺に目を移すと、北及び北西方向に数km離れて国衙推定地・郡衙推定地がそれぞれ所在する。また物部川の約1.2km上流や、東方5～6km以内の香長平野東部には、所謂官衙的な内容を持った当該期の遺跡が複数確認されている。さらには駅路との関係やいわゆる津としての機能等、古代の下ノ坪遺跡の性格については多角的な検討が必要とされるであろう。

(参考文献：「下ノ坪遺跡Ⅰ」高知県野市町教育委員会1997年)



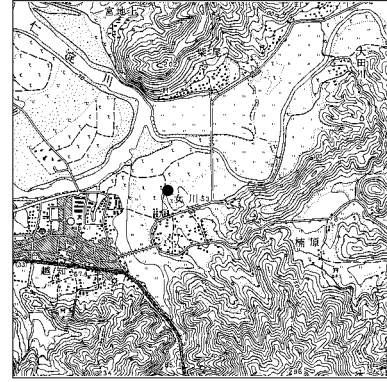
出土した四仙騎獣八稜鏡



古代溝跡出土土師器 (S=1:2)

女川遺跡 (96-540G)

1. 所在地 高岡郡越知町女川
2. 立地 河岸段丘
3. 時代 縄文・弥生・中世・近世
4. 調査期間 平成9年2月27日～3月31日
5. 調査面積 225m²
6. 担当者 曾我貴行



7. 調査内容 女川遺跡は仁淀川右岸の中位段丘上に位置する遺跡で、土器・石器が多数表面採集される縄文時代遺跡として知られていた。平成7年度実施の確認調査においては、各時代の遺構や、国内に例のない特異なガラス製品などが検出されている。またその後の緊急発掘調査によって、中近世の遺構分布域なども明かとなってきている。本年度の調査は、これらの成果をもたらした女川遺跡の規模や性格、そしてガラス製品の位置付け等を究明し、以後の遺跡保護に有効となる資料を採取することを目的としたものである。したがって本次の調査では、遺跡に関する情報を最大限に収集するために、客土層と一部の表土層を除いて、掘り上げたすべての土壌についての乾燥フルイ選別(5mmメッシュ)を実施し、得られたすべての試料を水洗選別することとした。

調査の結果、本年度の調査対象地の大半の部分は、旧来の遺物包含層及び遺構面に攪乱を受けていることが判明したが、一方では竪穴住居跡1、ピット状遺構7などの遺構を検出することができた。竪穴住居跡は前年度に確認していた土坑状遺構(ガラス製品出土)を中央土坑とする円形のものである。検出範囲における規模は南北8.25m、東西6.20mで、さらに調査区外東方へと続いている。柱穴は7基検出できたが、本来は柱穴7～8本の構造のものと考えられる。この住居跡は弥生時代前期のものと考えられ、その他のピット状遺構もこの時期のものが主体とみられる。

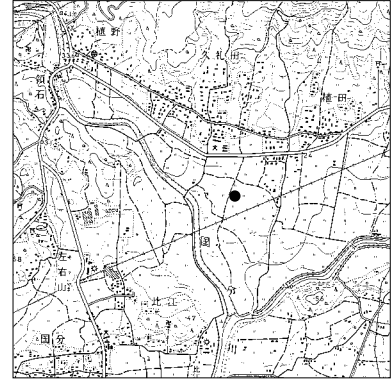
出土遺物は、縄文土器、石器(石鏃、石錘、叩石、剥片、碎片)、弥生土器、石器、中世土器、備前焼、青磁、土錘、近世陶磁器等、約3千点が得られている。縄文・弥生時代の遺物は、主に竪穴住居跡とその周辺から出土しているが、両時代の遺物は出土量においてはほぼ拮抗している。また出土石器類の素材の面で特徴的なのは、同町横倉山周辺で入手可能な凝灰質頁岩(酸性凝灰岩)製のものが圧倒的多数を占めることである。石鏃の製品・未製品や、最終加工時に生じるとみられる微細な碎片が多量にみられることから、石器製作跡が存在したものと考えられる。

本次調査によって、前年度出土のガラス製品は弥生時代前期の所産であることがほぼ判明した。しかし一方では、多量の縄文時代遺物の出自については不明な点を多く残している。女川遺跡の調査範囲はまだまだ微小なものであり、また課題は山積しているが、少なくとも仁淀川水系の縄文・弥生時代に対する旧来の見方を一変させ得る遺跡であることは、明らかとなったであろう。



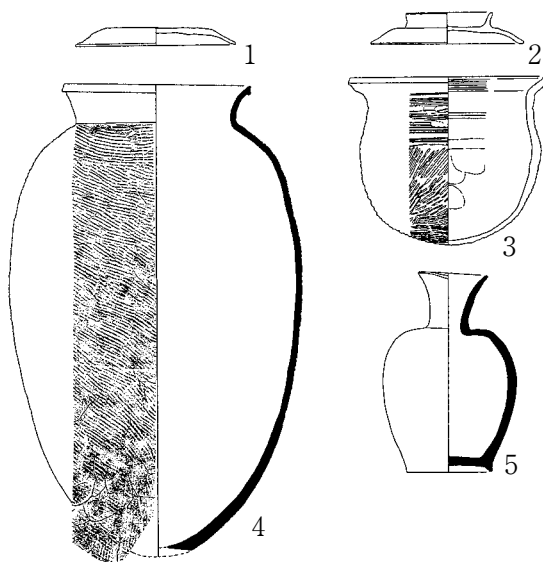
白猪田遺跡 (96-540G)

1. 所在地 南国市久礼田
2. 立地 領石川左岸の沖積平野
3. 時代 奈良平安
4. 調査期間 平成8年12月3日～平成9年2月1日
5. 調査面積 1,018.7m²
6. 担当者 出原恵三・三谷民雄・西村直也



7. 調査内容 白猪田遺跡は、土佐国衙推定地から北に約1kmのところにある。県営圃場整備事業に伴う緊急発掘調査で、昨年度実施した試掘調査により、本年度本発掘調査を実施した。7世紀から10世紀にかけての遺構遺物が確認出来たが、主体を占めるのは8世紀代のものである。検出遺構は掘立柱建物6棟、土坑2基、溝状遺構1基、ピット多数である。建物の規模や軸方向は余り整然としたものではなく柱穴掘り形も略円形をなすものが多く土佐国衙跡や下ノ坪遺跡など官衙関連遺構のものに比べると貧弱である。建物の性格としては、倉庫と住居として捉えることができよう。これらの掘り形埋土からは8世紀前半代の遺物が出土している。この他注目すべき遺構としては、地鎮と考えられる祭祀土坑 (P30) を挙げることができる。この土坑は、一辺90cm前後を測る隅丸方形プランをなし、深さ46cm、断面逆台形状をなしている。床面より須恵器長胴甕・壺・土師器甕・皿・高台付皿が出土している。皿 (1) は須恵器甕中より、皿 (2) は土師器甕中より出土しており、両者とも蓋として使われていたものと考えられる。P30以外にも類似した遺構が1例確認されている。これらの土器はおおよそ10世紀代に比定することができるものであり、先の建物群とは共存しない。したがって建物群が廃絶された後、祭祀空間として利用されていた可能性が考えられる。遺物から見て陰陽師などによる祭祀を想定することができる。

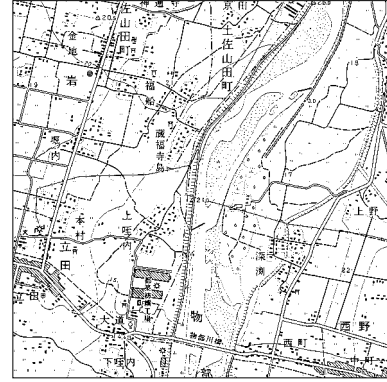
出土遺物では、溝状遺構SDIから出土した8世第2四半期の一括土器を挙げなければならない。須恵器は坏・皿・高坏・壺・甕があり、土師器は坏と皿からなっている。須恵器が7割、土師器が3割で構成されている。本県においては、これまで当該期の良好な資料が欠けており、今次資料は高知平野の古代土器編年の基準資料となるものである。白猪田遺跡は、8世紀前半代の建物跡を中心とした遺跡であるが、建物の規模等から見て、これまで確認されてきた古代の遺跡とは性格を異にするものである。類似例のない現状においては全く想像の域をでないが、国衙官人層の居宅を考へることもできよう。何れにしても「国府集落」を構成する遺跡として捉えることは可能であろう。



出土遺物 (1～3：土師器，4・5須恵器)

岩村遺跡群 (96-58NI)

1. 所在地 南国市福船
2. 立地 沖積平野
3. 時代 弥生時代～近世
4. 調査期間 平成8年9月11日～平成9年2月10日
5. 調査面積 3,910m²
6. 担当者 出原恵三・三谷民雄・武市義浩・尾崎大地
西村直也・西山直利



7. 調査内容 岩村遺跡群の調査は、県営圃場整備事業に伴うもので平成7年度より継続して実施している。岩村遺跡群は一級河川物部川の右岸に位置し、標高20m前後を測る。田村遺跡群からは直線距離で約3km北に位置する。周辺には段状をなした旧流路跡が確認でき、近世以前は物部川の支流が遺跡近くにまで迫っていたことが判る。当遺跡は、中世～戦国期にかけての平城跡である岩村土居城を中心とする遺跡群として捉えられてきたが、7年度の調査では、中近世の遺構と共に弥生後期・古墳時代前期初の堅穴住居3棟をはじめ溝・土坑などが確認され、遺跡の成立年代が弥生時代に遡ることが明らかとなった。

8年度の調査は、岩村城の東・西・北の堀跡とその周辺部が調査対象となった。周辺部の調査では弥生前期末の土坑2基と後期の堅穴住居1棟を検出した。土坑は長軸2m前後の隅丸方形プランを呈し床面から復元完形の壺・甕が出土している。高知平野において前期中葉以降一般的に見られる貯蔵穴と考えられる。弥生前期末における集落址の拡散増加を示す好例として捉えることができる。この他古代に属するものとして、緑釉陶器、銅椀の一部と思われるものも包含層より出土している。

堀は、これまでに現在の微地形や文献資料によって推定されてきたが、発掘調査を実施するのは今回が初めてのことである。調査結果は従来の推定をほぼ肯定するものとなったが、新知見も得ることができた。先ず東側では幅5m、深さ2.5m、断面台形の堀が南北方向に80m延びており、北端すなわち、現存する土塁の東端付近でクランク状に短く東に折れ、土塁の北側裾を巡ってきた堀と連結している。そして連結部から南に向かって、上述した南北方向の堀と並行して延びる堀の存在を新たに明らかにすることが出来た。東側については2条の堀が巡っていることが判明した。堀からの出土遺物はそれほど多くはないが14～15世紀の青磁・白磁・備前焼を中心とする国内産陶器や土師器類・瓦質の鍋などが出土している。岩村遺跡群は、物部川の支流に臨むところに占地していることから弥生前期以来戦国期に至るまで川津としての役割を果たしてきたことが考えられる。

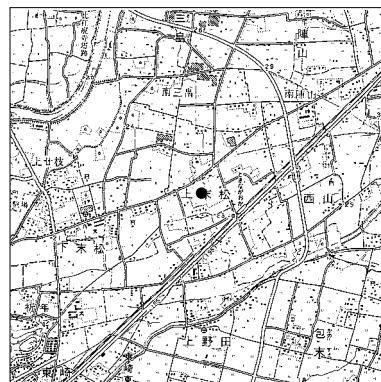


岩村土居城東堀

ごたんじ

五反地遺跡 (96-3RNG)

1. 所在地 南国市上末松字五反地
2. 立地 更新世形成の河成段丘上
3. 時代 古代～近世
4. 調査期間 1996年4月23日～同年8月22日
5. 調査面積 約5,700m²
6. 担当者 浜田恵子・藤方正治
7. 調査内容



遺跡域は後世に於ける改変を受けており、各遺構の残存状態は決して良いものではなかった。調査区内には多くの倒木痕跡が存在しており、この中で規模の大きなものは長軸約4m、短軸約3m、検出面からの深さ約1mのものであった。遺構としては古代のものと考えられる道路状遺構、近世以降のものと考えられる掘立柱建物跡・土壇・溝状遺構・柱穴である。この内、道路状遺構は調査区



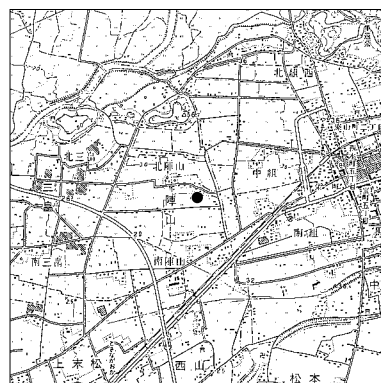
五反地遺跡検出の道路状遺構

を斜めに横断する形で検出されており、残存状態の良い部分は一部である。幅1.5m～3.0mで硬化面を持つが、ここには軸間1.4m程で平行して走る浅い溝が幾つか存在しており、轍痕と考えられる。また、径2cm程度の小石を路線に平行して幅30cmで敷き詰めたと考えられる部分が存在していた。硬化面の最終面にはやや規模の大きな窪みが多く存在している。

じんやまきたさんく

陣山北三区遺跡 (96-2RNJ)

1. 所在地 南国市陣山
2. 立地 更新世形成の河成段丘上
3. 時代 弥生時代・古代・中世・江戸時代
4. 調査期間 1996年8月26日～同年11月13日
5. 調査面積 約4,144m²
6. 担当者 出原恵三・佐竹寛・行藤たけし
7. 調査内容



あけぼの道路敷設工事に伴う調査であり、昨年度の調査区の北隣りに位置する。今回の調査では、遺構として溝10条が確認されたが、出土遺物が皆無若しくは僅少であるため、時期・性格等を特定することはできない。また、遺構外からの主な出土遺物としては、縉（さし）状態の古銭をはじめ、弥生時代から近世にかけての土器片や陶磁器類が出土している。

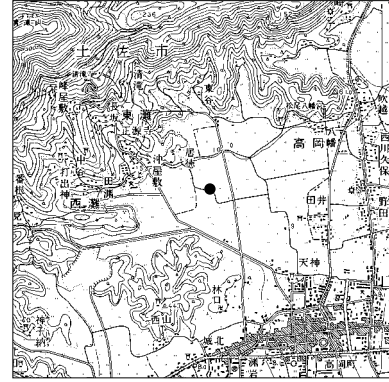
昨年度実施された陣山遺跡の本調査や同北三区遺跡の試掘調査の結果、本年度の調査に期待がかけられたが、今回の調査では遺構や遺物が極めて少ないため、遺跡の全容については不明な点が多い。



縉状態で出土した古銭

土佐市^{いとく}居徳地区確認調査（第1次）（96-141T）

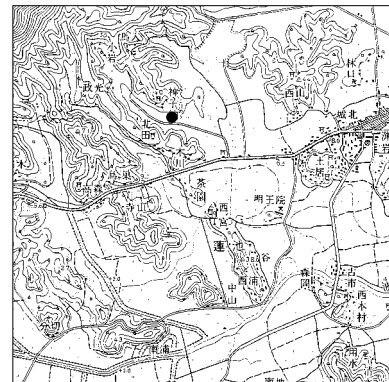
1. 所在地 土佐市高岡町乙
2. 立地 沖積地
3. 時代 縄文～古墳
4. 調査期間 平成8年6月5日～8月6日
5. 調査面積 650m²
6. 担当者 曾我貴行
7. 調査内容 四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設に伴う埋蔵文化財の確認調査である。5×5mの試掘坑を26箇所設定して、遺構・遺物の確認を試みた。



調査の結果、14箇所を試掘坑において遺構・遺物を検出した。遺跡は3地点に分かれて存在し、総面積は24,000m²である。遺跡の内容は多彩で、縄文時代後期～晩期の遺構及び泥炭層状の遺物包含層、弥生時代前期の集落跡、古墳時代の祭祀跡などが確認されている。新たな遺跡名は「居徳遺跡群」である。

土佐市^{みこのう}神子納地区確認調査（96-22TM）

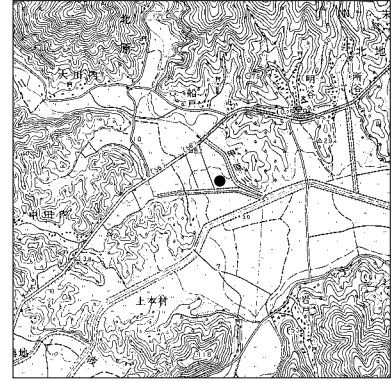
1. 所在地 土佐市蓮池神子納
2. 立地 沖積地
3. 時代
4. 調査期間 平成8年10月9日～10月29日
5. 調査面積 384m²
6. 担当者 曾我貴行
7. 調査内容 四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設に伴う埋蔵文化財の確認調査である。5×5mの大きさを基本とする試掘坑を17箇所設定して、遺構・遺物の確認を試みた。



調査の結果、設定した試掘坑においては遺跡の存在は認められなかった。当地区では、腐植土層もしくは腐植土質粘土層の堆積が広範囲に分布しており、沼地状を呈していたことが推察される。ただし、少量の流れ込み遺物が認められることから、当地区の周辺地域には遺跡の存在する可能性が考えられる。

土佐市^{きたはら}北原地区確認調査 (96-23TK)

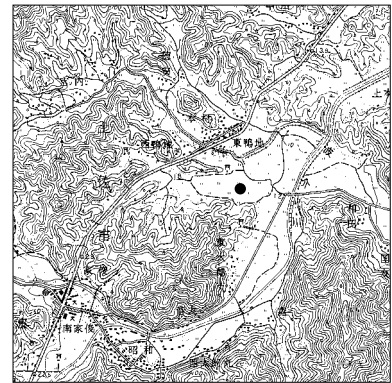
1. 所在地 土佐市北原甲原
2. 立地 沖積地
3. 時代 中世～近世
4. 調査期間 平成8年11月5日～平成9年1月21日
5. 調査面積 1,169m²
6. 担当者 曾我貴行
7. 調査内容 四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設に伴う埋蔵文化財の確認調査である。5×5mの大きさを基本とする試掘坑を23箇所設定して、遺構・遺物の確認を試みた。



調査の結果、1箇所の試掘坑において中世～近世の所産とみられる杭列を検出したため、急遽その周囲500m²に関しては発掘調査に切り替えて調査を実施した。杭列は3時期のものが重複して存在し、これらを構成する木杭の総数は約700本に上る。これらは水田経営等に関連する遺跡であると考えられる。この新たな遺跡は、「甲原中川内遺跡」と命名された。

土佐市^{へわ}戸波地区確認調査 (96-43HW)

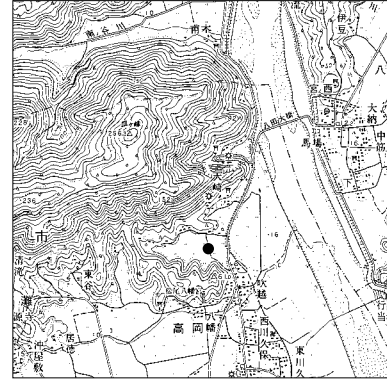
1. 所在地 土佐市戸波東鴨地・西鴨地
2. 立地 沖積地
3. 時代 中世～近世
4. 調査期間 平成9年1月22日～2月22日
5. 調査面積 820m²
6. 担当者 久家隆芳・曾我貴行
7. 調査内容 四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設に伴う埋蔵文化財の確認調査である。5×5mの大きさを基本とする試掘坑を26箇所設定して、遺構・遺物の確認を試みた。



調査の結果、3箇所の試掘坑において古墳時代から古代・中世にわたる遺物包含層、及び自然流路を確認した。古墳時代については遺物包含層のみの確認であるが、古代・中世に関しては自然流路が検出されており、集落跡もしくは生産関連遺跡の存在する可能性が高い。当該事業計画地内における遺跡の範囲は約5,300m²であり、新たな遺跡名は「西鴨地遺跡」である。

人麻呂様城地区確認調査 (96-53HM)

1. 所在地 土佐市高岡町八幡
2. 立地 仁淀川右岸後背湿地
3. 時代 弥生時代後期～近世
4. 調査期間 平成9年2月19日～3月18日
5. 調査面積 376m²
6. 担当者 久家隆芳
7. 調査内容 今回の調査は、四国横断自動車道建設に伴う確認調査である。今次調査では平野部の一部を対象として調査を実施した。

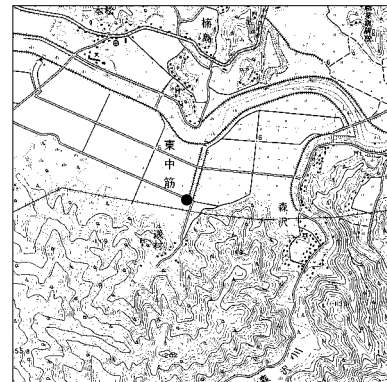


基本的に5×5mのトレンチを15ヶ所設定して調査を実施した。調査の結果、9ヶ所のトレンチで遺物が出土し、そのうちの3ヶ所で遺構を検出した。遺物は弥生時代後期・古墳時代後期・古代・中世・近世以降のものが出土した。遺構は溝2条・ピット1基・土坑2基等を検出した。溝からは12世紀を中心とした遺物が出土した。

平成9年度に発掘調査を実施する予定である。

浅村遺跡 (96-44NA)

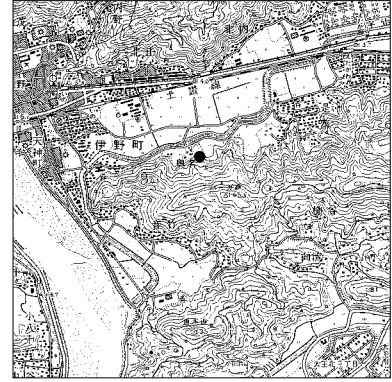
1. 所在地 高知県中村市森沢 (浅村地区)
2. 立地 丘陵の谷部入口
3. 時代 古墳時代
4. 調査期間 平成8年12月16日～2月4日
5. 調査面積 800m²
6. 担当者 竹村三菜・武吉眞裕
7. 調査内容 今回の調査は中村・宿毛を結ぶ高規格道路である中村宿毛道路建設に伴う試掘調査である。工事予定地の山側の谷部には浅村の本集落が形成されており、遺跡地区では中世の散布地として浅村遺跡が確認されている。道路建設予定地内に8ヶ所トレンチを設定し、調査を実施した結果、浅村集落に近い谷部より古墳時代初頭の遺物と周辺には焼土を確認した。遺物の出土は東側に向かって広がっており、すぐ西側には南北方向を自然流路と思われる落ち込みを確認した。



これらの出土状況から河川祭祀的行為がなされていた可能性があり、今後の本調査が期待される。

もりきたしやめん
バーガ森北斜面遺跡 (96-31IB)

1. 所在地 吾川郡伊野町バーガ森字奥名
2. 立地 標高40～60mの丘陵北斜面部と丘陵間の谷部
3. 時代 弥生時代・古代
4. 調査期間 平成8年10月28日～11月22日
5. 調査面積 120m²
6. 担当者 伊藤強



7. 調査内容 本遺跡は伊野町バーガ森の北斜面に所在する。弥生中期後半の高地性集落遺跡として県内でも著名であり、以前の調査では堅穴住居址3棟と、弥生土器、投弾、打製石鏃などが出土している。今次調査は、伊野町南地区基幹農道整備事業に伴う試掘調査として実施された。2×2mのトレンチ31ヶ所を調査した結果、4ヶ所で遺構、遺物を確認した。標高60m程の尾根部では、



尾根部出土の石包丁

弥生中期後半の土器や石包丁などが出土している。また、その下の谷部でも同時期の遺物、遺構を確認した。谷部では、10世紀後半代の土師器の杯も多く出土している。本遺跡において、古代の遺物が確認されたのは初めてであり、平成9年度の本調査の成果が待たれる。

銀杏の木遺跡 (96-49MI)

1. 所在地 長岡郡本山町本山
2. 立地 吉野川右岸の河岸段丘
3. 時代 縄文時代～近世
4. 調査期間 平成9年2月4日～2月6日、3月3日～3月21日
5. 調査面積 2,336m²
6. 担当者 出原恵三・筒井敬二

7. 調査内容 弥生後期中葉の堅穴住居1棟、中近世の土坑、ピットを多数検出した。堅穴住居は1辺4m前後の隅丸方形をした比較的小型の住居であるが、埋土及び床面からは、完形品を含む多量の土器と結晶片岩製の打製石包丁2点が出土している。本山町から土佐町にかけての吉野川流域の河岸段丘は、縄紋遺跡の集中地点として知られているが、弥生後期から古墳時代初めにかけても数多くの遺跡が確認されており、堅穴住居も相当数検出されている。その中で今次検出例は、最も遡るものとする事ができる。中近世の遺構の性格については十分明らかにすることが、出土遺物として特徴的な土鍋に注目することができる。また包含層からではあるが、縄紋後期土器も出土している。

V 条例・規則・規程等

高知県条例・規則

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(平成3年度3月20日条例第3号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(設置)

第1条 埋蔵文化財を発掘し、保存し、及び公開することにより、埋蔵文化財に対する知識を深め、もって県民文化の振興に寄与するため、高知県立埋蔵文化財センター（以下「センター」という。）を南国市に設置する。

(管理の委託)

第2条 教育委員会は、センターの管理に関する業務を財団法人高知県文化財団に委託することができる。

(委任)

第3条 この条例に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、平成3年4月1日から施行する。

2. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則

(平成3年3月26日教育委員会規則第5号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例（平成3年高知県条例第3号）第3条の規定に基づき、高知県立埋蔵文化財センター（以下「センター」という。）の管理について、必要な事項を定めるものとする。

(センターの利用)

第2条 センターを利用しようとする者（第4条において「利用者」という。）は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料（第4条において「埋蔵文化財等」という。）の観覧、閲覧、撮影又は模写等を行うことができる。

(利用時間)

第3条 センターの利用時間は、午前8時30分から午後5時までとする。

2 教育委員会は、前項の規定にかかわらず、特に必要と認めるときは、同項の利用時間を変更することができる。

(遵守事項)

第4条 利用者は次に掲げる事項を守らなければならない。

- 1 センターの施設、設備若しくは埋蔵文化財等を損傷し、又はそのおそれのある行為をしないこと。
- 2 他の利用者に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- 3 前2号に掲げる者のほか、センターの管理上必要な指示に反する行為をしないこと。

(休所日)

第5条 センターの休所日は、次に掲げるとおりとする。ただし、教育委員会が特に必要と認めるときは、これを変更し、又は臨時に休所日を設けることができる。

- 1 日曜日及び土曜日
- 2 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
- 3 1月2日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで

(委任)

第6条 この規則に定めるもののほか、センターの管理及び運営に必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成4年7月18日から施行する。

財団法人高知県文化財団規程

3. 財団法人高知県文化財団組織規程

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規程は、財団法人高知県文化財団（以下「財団」という。）の組織に関し必要な事項を定め、財団事務の適正かつ能率的な執行を図ることを目的とする。

(組織)

第2条 財団に事務局を置く。

- 2 事務局に右の表を掲げる機関を置き、その内部組織として課を置く。
- 3 理事長は、必要があると認めるときは、課に班又は係を置くことができる。

機 関	課 名
総 務 部	総 務 課
美 術 館	事 業 課・学 芸 課
歴 史 民 俗 資 料 館	事 業 課・学 芸 課
埋蔵文化財センター	総 務・調 査 課
坂 本 龍 馬 記 念 館	
文学館開設準備室	

第3章 事務分掌

(埋蔵文化財センターの分掌事務)

第8条 埋蔵文化財センターの分掌事務は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 受託した高知県立埋蔵文化財センターの管理運営に関する事。
- (2) 所の予算及び決算に関する事。
- (3) 所の文書及び公印に関する事。
- (4) 所の職員の服務及び福利厚生に関する事。
- (5) 埋蔵文化財の調査研究に関する事。
- (6) 埋蔵文化財の整理保存に関する事。

附 則

- 1 この規程は、平成3年4月1日から施行する。
- 2 財団法人高知県文化財団組織規程（平成2年4月1日制定）は、廃止する。

附 則

この規程は、平成3年7月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成3年9月6日から施行する。

附 則

この規程は、平成3年11月15日から施行する。

附 則

この規程は、平成5年4月1日から施行する。

高知県埋蔵文化財センター年報 6

1996年度

発行日 平成9年9月1日

編集・発行 (財)高知県文化財団
埋蔵文化財センター

印刷 共和印刷株式会社